

# 令和7年度EBPMによる人口減少対策推進業務 県内・県外若年層社会増減要因アンケート調査 報告書 (概要版)

令和8年3月

# 目次

- I. 調査概要...3
- II. 調査結果...4
  - 1. 回答者の基本属性...5
  - 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問...6
  - 3. UIJターン等に関する設問...25
  - 4. 人口減少対策に関する設問...29

# I. 調査概要

## ■ 調査の目的

- 進学・就職・転職等の居住地選択を行う主要な局面における、県内への定着及び県外への転出の背景などから、「なぜ福島を選んだのか／選ばなかったのか」の要因を分析し、本県における人口減少対策の取組の検討に活用する。

## ■ 調査の方法

### ● 調査対象

- 福島県内在住者(Uターン、県外出身者含む)及び首都圏在住の福島県出身者(Webアンケート会社に登録している18歳～49歳の男女)。

### ● 調査期間

- 令和7年7月18日(金)～令和7年7月29日(火)

### ● 回答件数

- 2,069件  
(うち男性:822件、女性:1,247件)

## 【参考】概要版で掲載しているクロス分析の対象の定義

		抽出条件	カテゴリ説明
移動形態別	ずっと福島県	高校卒業年齢時に福島県に居住(本調査における「福島県出身」の定義)、以降県外に転居歴なし	居住地の履歴別に考え方、行動の違いを分析
	Uターン	福島県出身、高校卒業以降に県外に転居歴があり、現在は福島県に居住	
	Iターン	東京圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)出身、高校卒業以降にも福島県外に居住歴があり、現在は福島県に居住	
	Jターン	高校卒業年齢時に福島県および東京圏以外に居住、高校卒業以降に東京圏に居住歴があり、現在は福島県に居住	
	現在東京圏	福島県出身、現在は東京圏に居住	
就職経験者全体	県内高卒就職者	福島県出身で県内の高校卒業後に就職	学校卒業後の就職時に異なる選択を行った属性ごとに、進路・居住地選択の場面における考え方、行動の違いを分析 学歴によって環境が異なると考えられるため、学歴別に設定
	県内高卒・県内就職者	県内就職者は初めての就職での勤務地が福島県	
	県内高卒・県外就職者	県外就職者は初めての就職での勤務地が福島県以外	
	県内大卒就職者	最終学歴が大学以上、進学先が福島県で、卒業後就職経験がある	
	県内大卒・県内就職者	県内就職者は初めての就職での勤務地が福島県	
	県内大卒・県外就職者	県外就職者は初めての就職での勤務地が福島県以外	
	県外大卒就職者	最終学歴が大学以上、福島県出身で進学先が福島県外で、卒業後就職経験がある	
	県外大卒・県内就職者	県内就職者は初めての就職での勤務地が福島県	
	県外大卒・県外就職者	県外就職者は初めての就職での勤務地が福島県以外	
	県内短大等卒就職者	最終学歴が短大、専門学校、高専	
県内短大卒・県内就職者	この他の定義は県内大卒就職者と同じ		
県内短大卒・県外就職者			
県外短大等卒就職者	最終学歴が短大、専門学校、高専		
県外短大卒・県内就職者	この他の定義は県外大卒就職者と同じ		
県外短大卒・県外就職者			
出身地域別	福島都市圏	高校卒業年齢における居住地が、福島市、二本松市、伊達市、桑折町、国見町、川俣町	県内出身者について、出身地を都市圏(中心市に対する就業者の通勤率が10%以上)で区分される地域ごとにグループ化 出身の生活エリア(都市圏)ごとに考え方、行動の違いを分析
	会津若松都市圏	高校卒業年齢における居住地が、会津若松市、喜多方市、磐梯町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町	
	郡山都市圏	高校卒業年齢における居住地が、郡山市、須賀川市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、三春町、小野町	
	いわき都市圏	高校卒業年齢における居住地が、いわき市、広野町	
	白河都市圏	高校卒業年齢における居住地が、白河市、西郷村、泉崎村、中島村、矢川町、棚倉町、浅川町	
	その他	高校卒業年齢における居住地が、上記以外の福島県内の町村	

## 【参考】概要版で掲載しているクロス分析表(色などを付けているセル)の見方

- 「全体」の構成比と比べて、
- ・10ポイント以上構成比が高い項目は **白抜字**
  - ・5ポイント以上構成比が高い項目は **水色塗りつぶし**
  - ・5ポイント以上構成比が低い項目は **斜体字**
  - ・10ポイント以上構成比が低い項目は **斜体字に下線**

## Ⅱ.調査結果

---

### ■ 概要版で紹介する調査結果は以下の通り

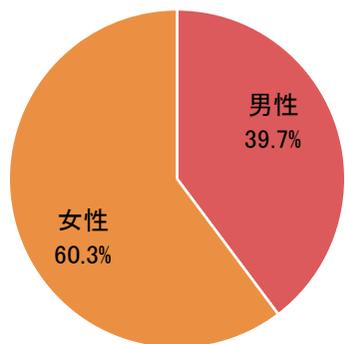
1. 回答者の基本属性
2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問
  - (1) 高校卒業直後の進路
  - (2) 大学・短期大学・専門学校等への進学
  - (3) 学校卒業後初めての就職
3. UIターン等に関する設問
  - (1) UIターンした人(年齢と理由)
  - (2) 県出身東京圏在住者がUターンする可能性
4. 人口減少対策に関する設問
  - (1) 居住地を選択する際に重視すること
  - (2) ジェンダーに関すること
  - (3) 勤務先の環境についての満足度
  - (4) テレワークについて

# 1. 回答者の基本属性

## ■ 回答者の基本属性は以下の通り

### 性別

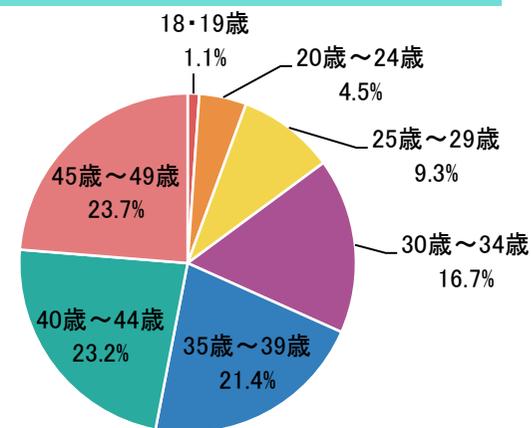
全体版4頁



(n=2,069)

### 年代

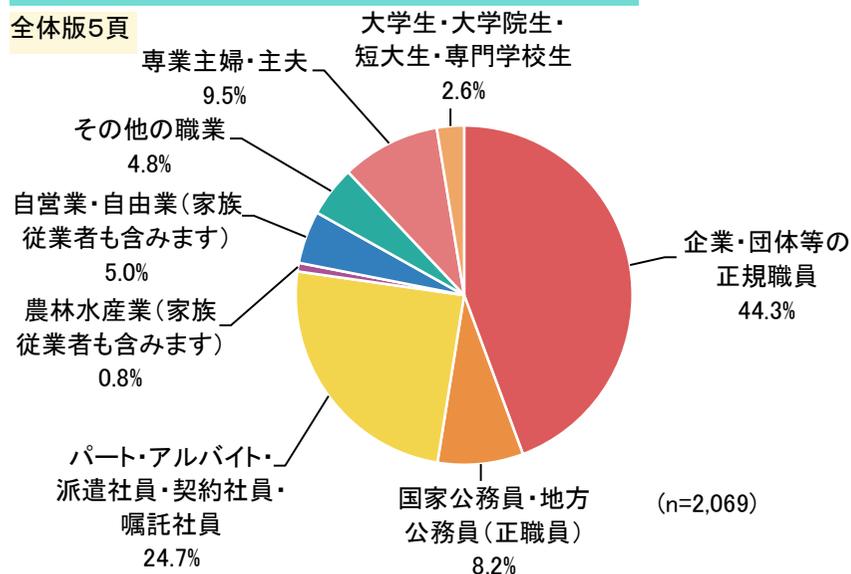
全体版5頁



(n=2,069)

### 職業

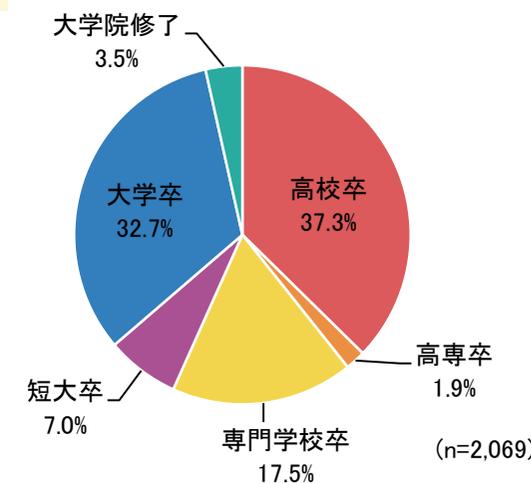
全体版5頁



(n=2,069)

### 最終学歴

全体版10頁



(n=2,069)

## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

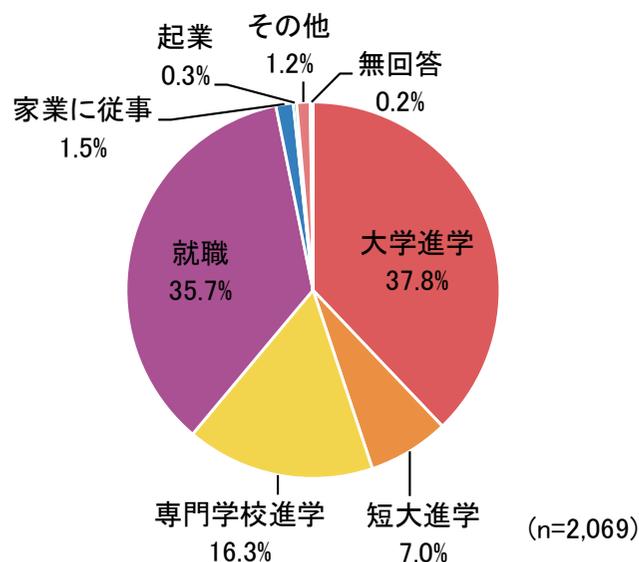
### (1) 高校卒業直後の進路

- 高校卒業後の進路として、最も割合が高いのは「大学進学」(37.8%)で、次いで「就職」(35.7%)、「専門学校進学」(16.3%)が続く。
- 出身地域別にみると、「いわき都市圏」と「白河都市圏」の出身者の男性において、「就職」の比率が高くなっている。

### 高校卒業直後の進路

全体版21-22頁

(横構成比:%)



	調査数	大学進学	短大進学	専門学校進学	就職	家業に従事	起業	その他	無回答	
全体	2,069	37.8	7.0	16.3	35.7	1.5	0.3	1.2	0.2	
出身地域別	福島都市圏	424	35.1	10.4	17.0	33.7	1.4	0.5	1.9	0.0
	男性	172	<b>47.1</b>	<b>0.6</b>	12.8	36.6	0.6	1.2	1.2	0.0
	女性	252	<b>27.0</b>	<b>17.1</b>	19.8	31.7	2.0	0.0	2.4	0.0
	会津若松都市圏	232	<b>32.3</b>	10.3	15.5	36.2	3.0	0.9	0.4	1.3
	男性	102	41.2	<b>2.0</b>	11.8	38.2	2.9	1.0	0.0	2.9
	女性	130	<b>25.4</b>	<b>16.9</b>	18.5	34.6	3.1	0.8	0.8	0.0
	郡山都市圏	531	39.9	7.5	15.4	34.7	0.9	0.2	1.1	0.2
	男性	216	<b>50.0</b>	2.3	13.4	32.4	0.5	0.5	0.5	0.5
	女性	315	33.0	11.1	16.8	36.2	1.3	0.0	1.6	0.0
	いわき都市圏	349	34.4	3.7	16.0	<b>43.3</b>	1.7	0.0	0.9	0.0
	男性	133	34.6	2.3	<b>11.3</b>	<b>49.6</b>	0.8	0.0	1.5	0.0
	女性	216	34.3	4.6	19.0	39.4	2.3	0.0	0.5	0.0
	白河都市圏	111	38.7	4.5	11.7	<b>41.4</b>	2.7	0.0	0.9	0.0
	男性	39	<b>48.7</b>	<b>0.0</b>	<b>2.6</b>	<b>48.7</b>	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	72	33.3	6.9	16.7	37.5	4.2	0.0	1.4	0.0	
その他	176	35.8	2.8	20.5	38.1	1.7	0.0	0.6	0.6	
男性	75	42.7	<b>0.0</b>	16.0	40.0	0.0	0.0	1.3	0.0	
女性	101	<b>30.7</b>	5.0	<b>23.8</b>	36.6	3.0	0.0	0.0	1.0	

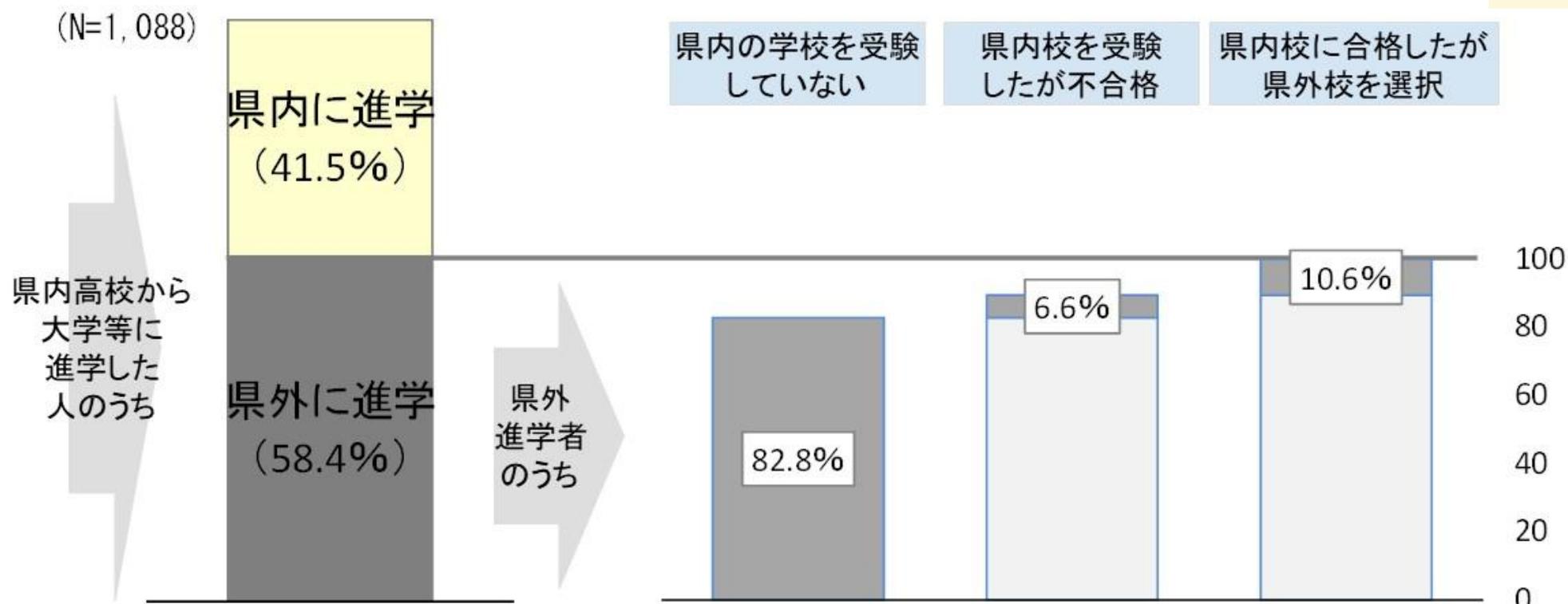
## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

### (2) 大学・短期大学・専門学校等への進学 ① 大学進学者の進学先選択の状況

- 大学進学者の進学先選択の状況を見ると、最終的に県内に進学した人が41.5%、県外に進学した人が58.4%であった。
- この県外に進学した人のうち82.8%が県内の学校を受験しておらず、8割以上が進学先選択の当初から県内の学校を選択肢に入れていないことが分かる。県内校を受験したが不合格だったため県外に進学した人が6.6%、県内校も合格したが、進学先としては県外校を選択した人が10.6%となっている。

大学進学者の進学先選択の状況

全体版23頁



## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(2) 大学・短期大学・専門学校等への進学 ②進学先を選んだ時に考慮した要素

- 進学先を選んだ際に考慮した要素について、「県内進学者」と「県外進学者」とを比較すると、「県内進学者」は「実家から通えること」という回答の比率が高い。一方、「県外進学者」は「学部・学科」を挙げている比率は、「県内進学者」に対して高い。
- このほか、「県外進学者」は「県内進学者」に比べて、「偏差値」を重視する比率が顕著に高い。

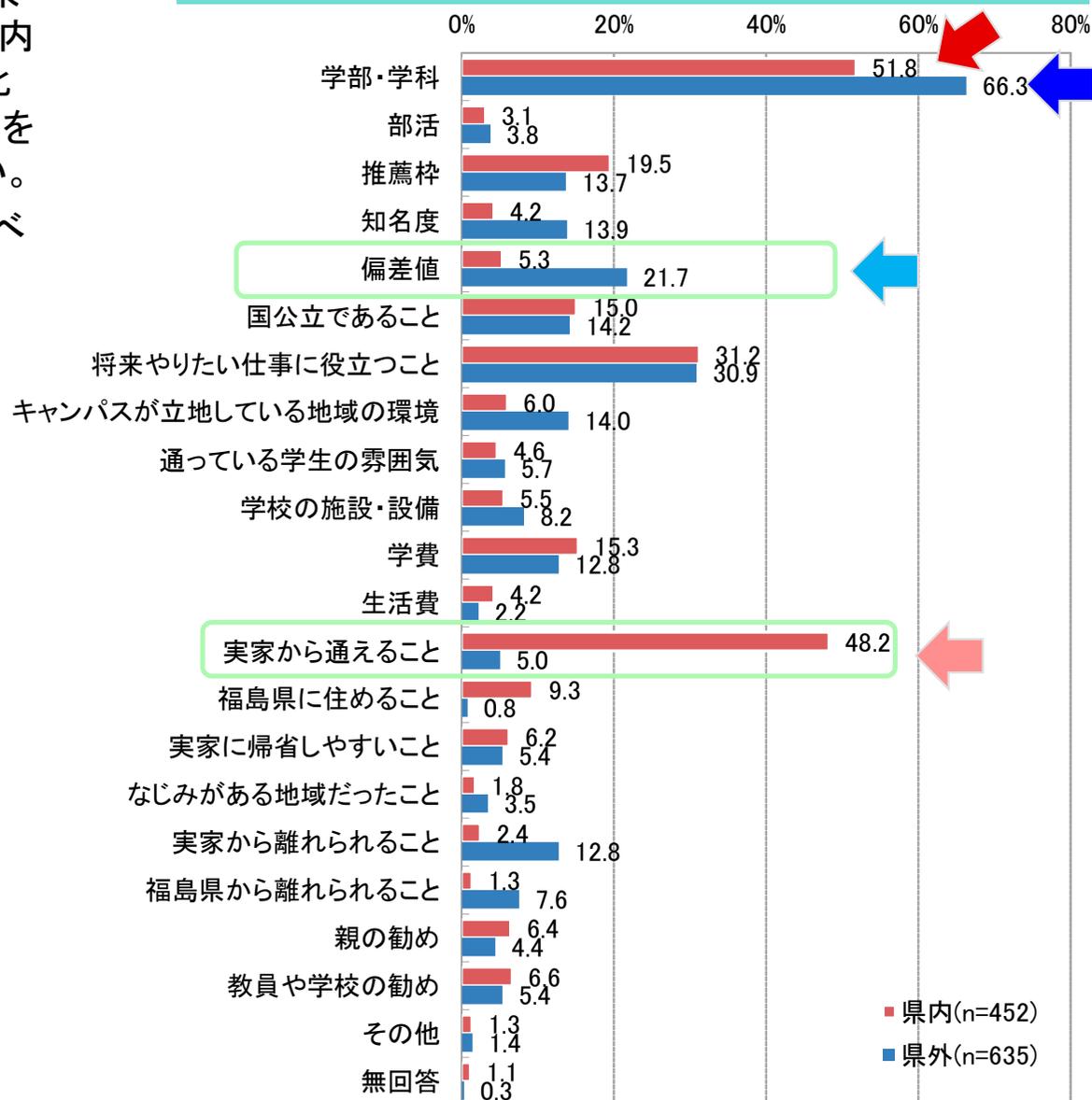
全体版37-38頁  
クロス表【「最大の決め手」と「その他考慮した要素」の合計】  
県出身大学等進学者全体の下  
・県内進学者  
・県外進学者  
の値をグラフ化

### グラフ中の矢印について

- 最多である (県内)
- 県外に比べて比率が高い
- 最多である (県外)
- 県内に比べて比率が高い

※以下全スライド共通

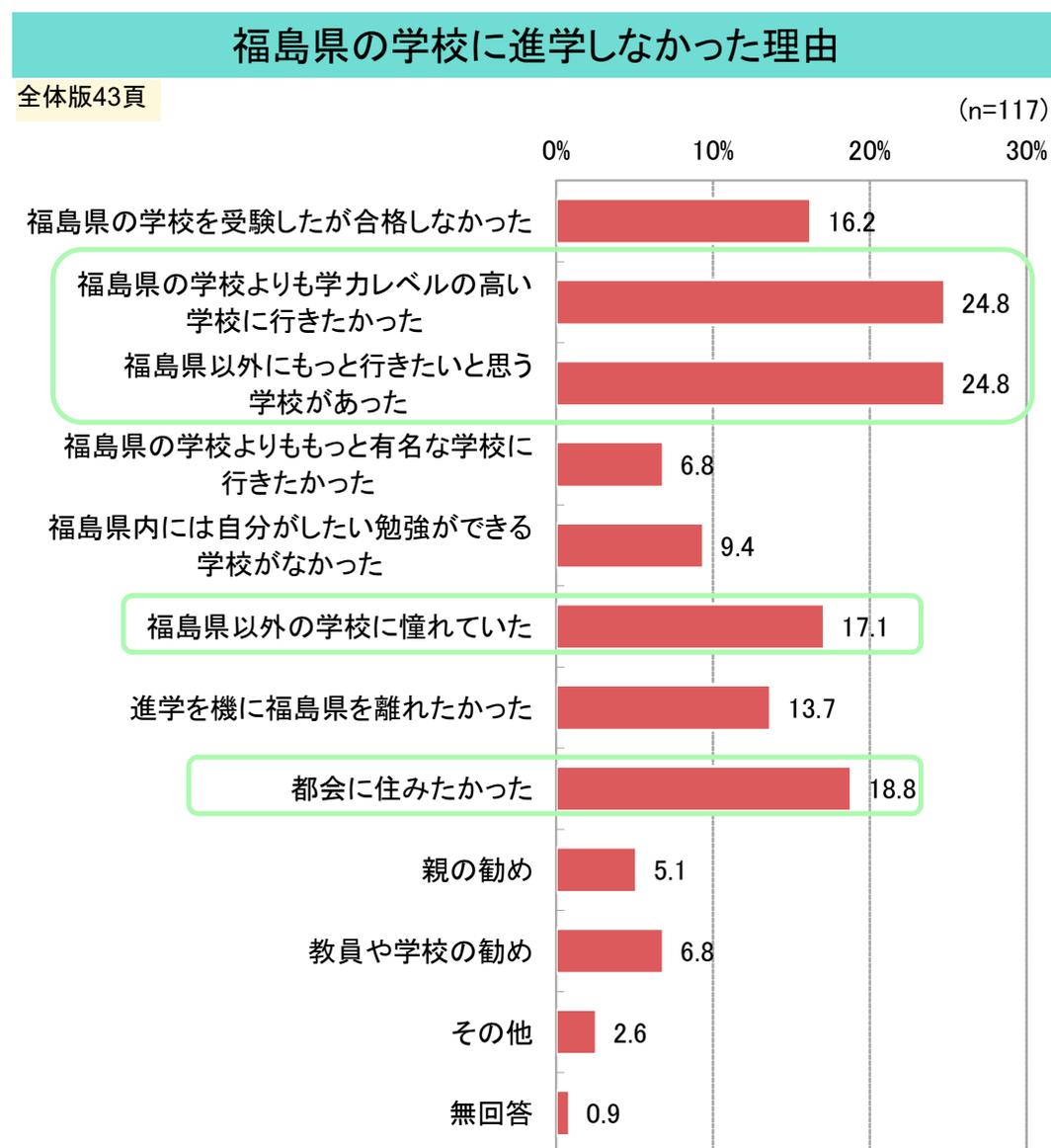
### 進学先を選んだ時に考慮した要素



## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(2) 大学・短期大学・専門学校等への進学 ③ 福島県の学校に進学しなかった理由

- 福島県の学校に進学しなかった理由として、最も割合が高いのは「福島県の学校よりも学力レベルの高い学校に行きたかった」「福島県以外にもっと行きたいと思う学校があった」（ともに24.8%）であった。
- 次いで「都会に住みたかった」（18.8%）、「福島県以外の学校に憧れていた」（17.1%）が続く。



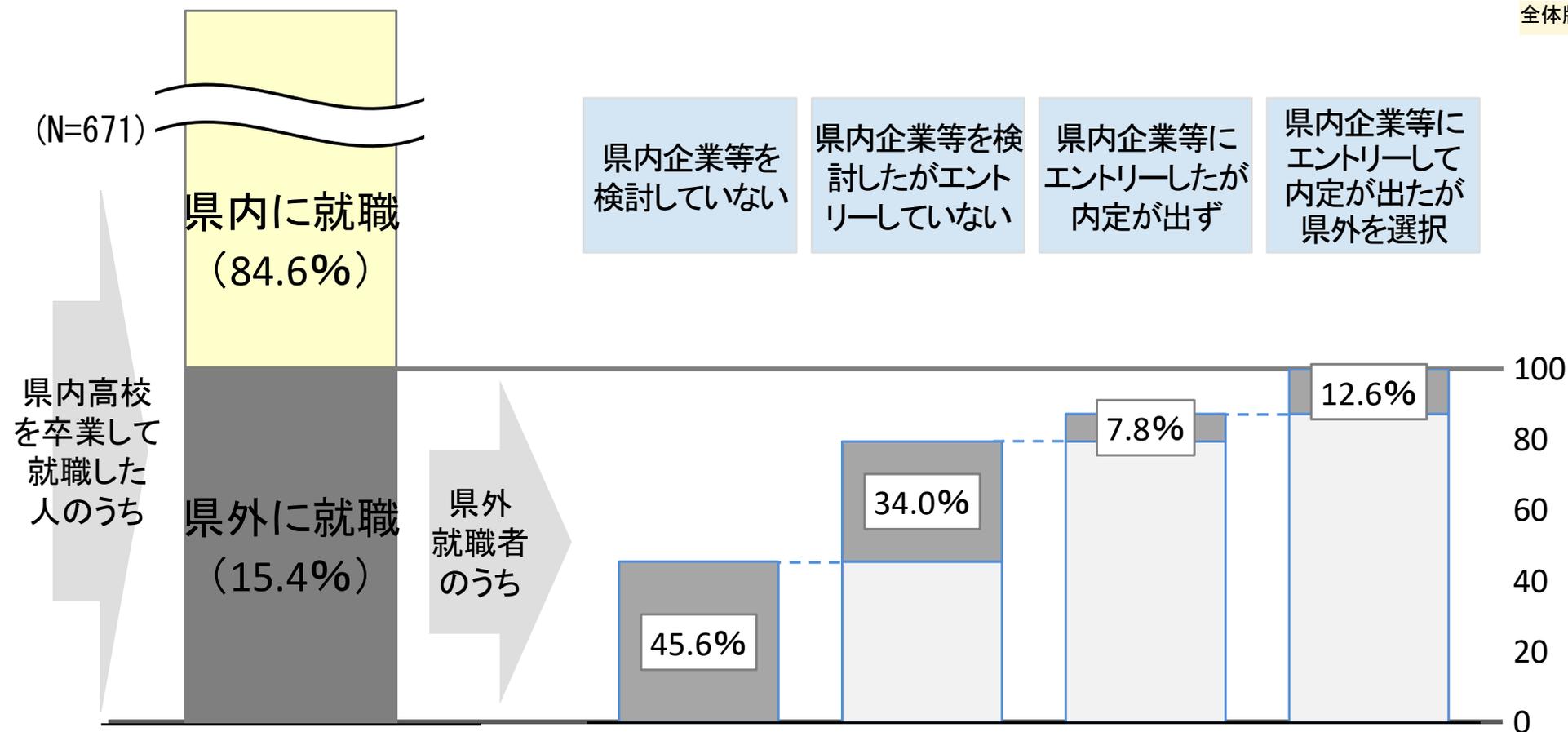
## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ①高卒 i) 県外就職選択の状況

- 福島県内の高等学校卒業後、就職を選んだ人のうち、県外の企業等に就職したのは15.4%。
- 県外に就職した人のうち、45.6%ははじめから県内を検討しておらず、検討したものの、エントリーに至っていない人も34.0%いる。

高卒就職者の県外就職選択の状況

全体版45頁

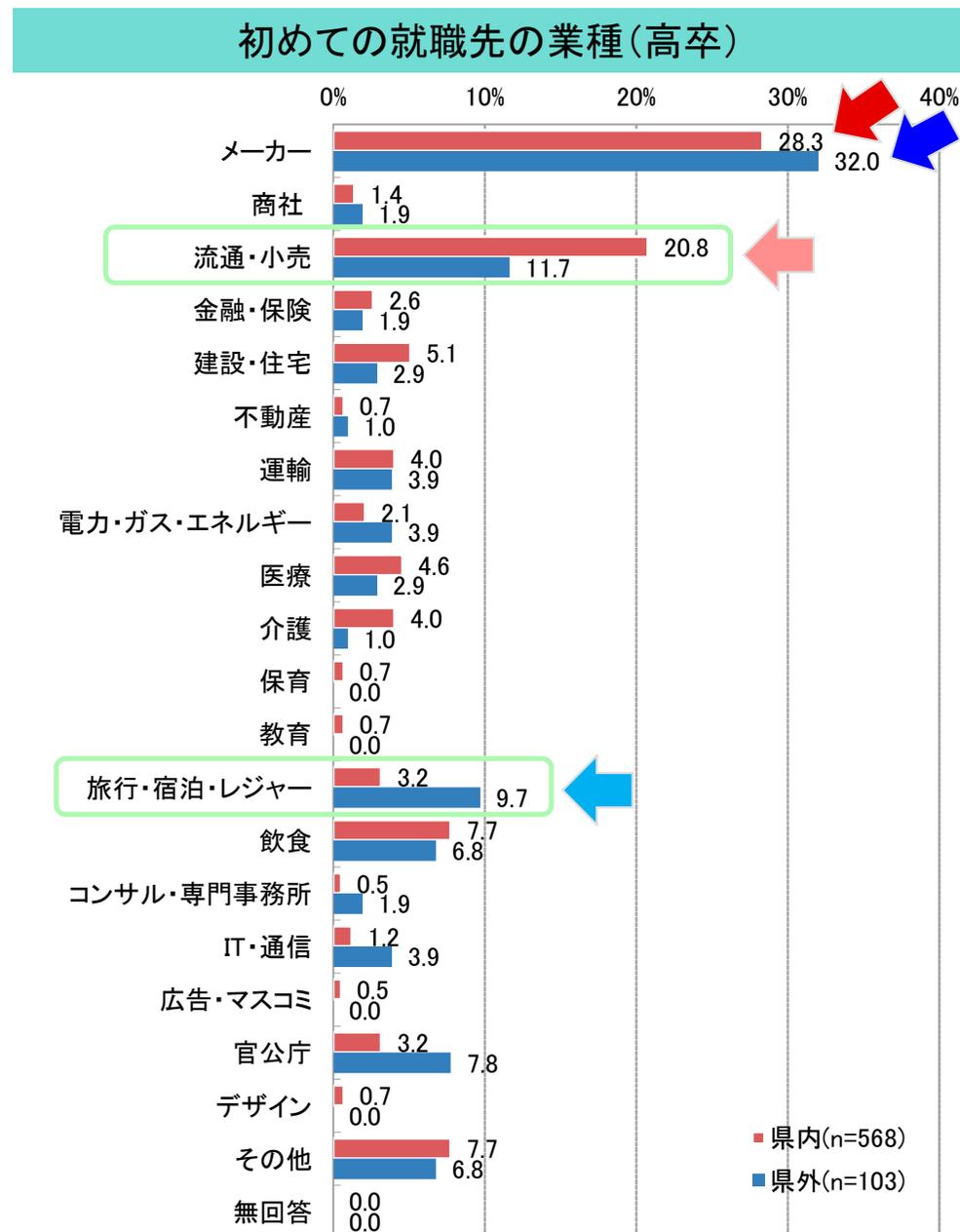


(注) 民間企業以外に官公庁なども就職先として考えられるので、「企業等」としている

## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ①高卒 ii) 初めての就職先の業種

- 県内・県外とも、最も多い業種は「メーカー」である。
- 「流通・小売」については、県内就職者のほうが県外就職者に比べて比率が高い。
- 「旅行・宿泊・レジャー」については、県外就職者のほうが県内就職者に比べて比率が高い。

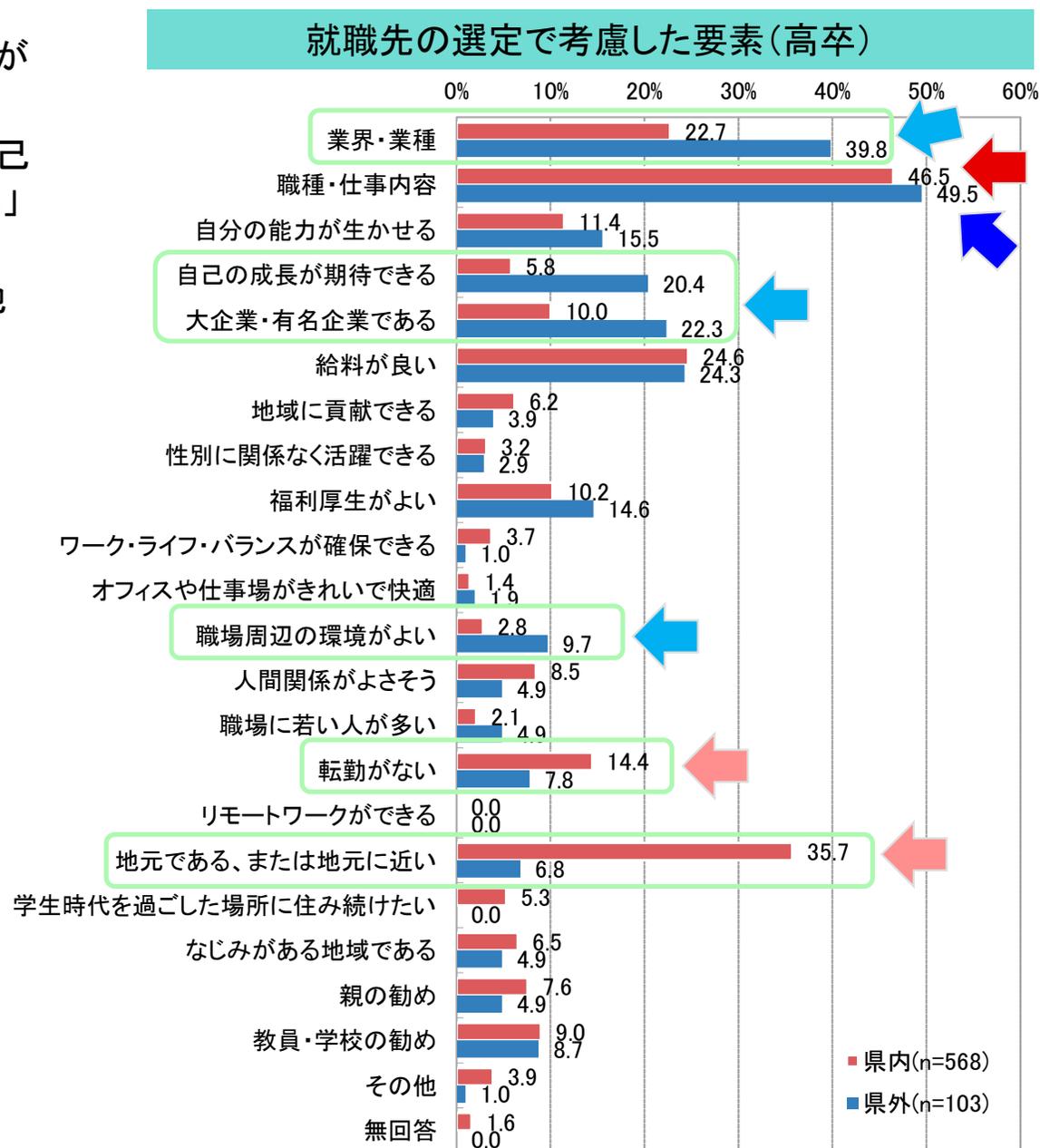


全体版56-57頁  
 クロス表【初めて就職した企業の業種】  
 県内高卒就職者の下の  
 ・県内就職者  
 ・県外就職者  
 の値をグラフ化

## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ①高卒 iii) 就職先の選定で考慮した要素

- 県内・県外就職者とも「職種・仕事内容」の比率が最も高い。
- 県外就職者の方が高いのは、「業界・業種」「自己の成長が期待できる」「大企業・有名企業である」「職場周辺の環境が良い」
- 県内就職者の方が高いのは、「転勤がない」「地元である、または地元に近い」



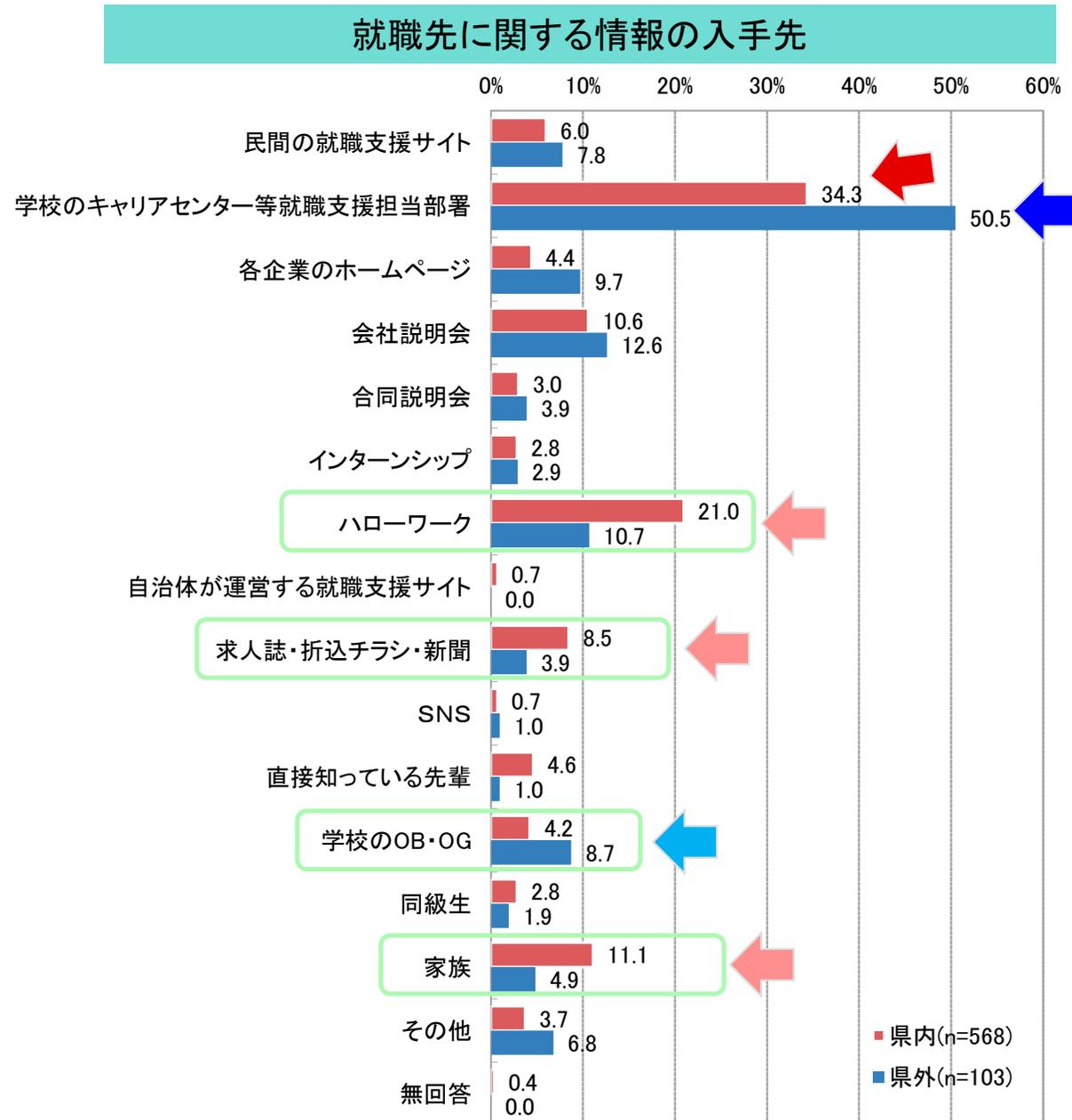
全体版71-72頁  
 クロス表【「最大の決め手」と「その他考慮した要素」の合計】  
 県内高卒就職者の下の  
 ・県内就職者  
 ・県外就職者  
 の値をグラフ化

## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ①高卒 iv) 就職先に関する情報の入手先

- 県内・県外就職者とも「学校のキャリアセンター等就職支援担当者」の比率が最も高いが、県外就職者の方がその比率は高い。
- 県外就職者の方が高いのは、「学校のOB・OG」「各企業のホームページ」
- 県内就職者の方が高いのは、「ハローワーク」「求人誌・折込チラシ・新聞」「家族」

全体版80-81頁  
クロス表【就職先の情報を入手した先(複数回答)】  
県内高卒就職者の下の  
・県内就職者  
・県外就職者  
の値をグラフ化



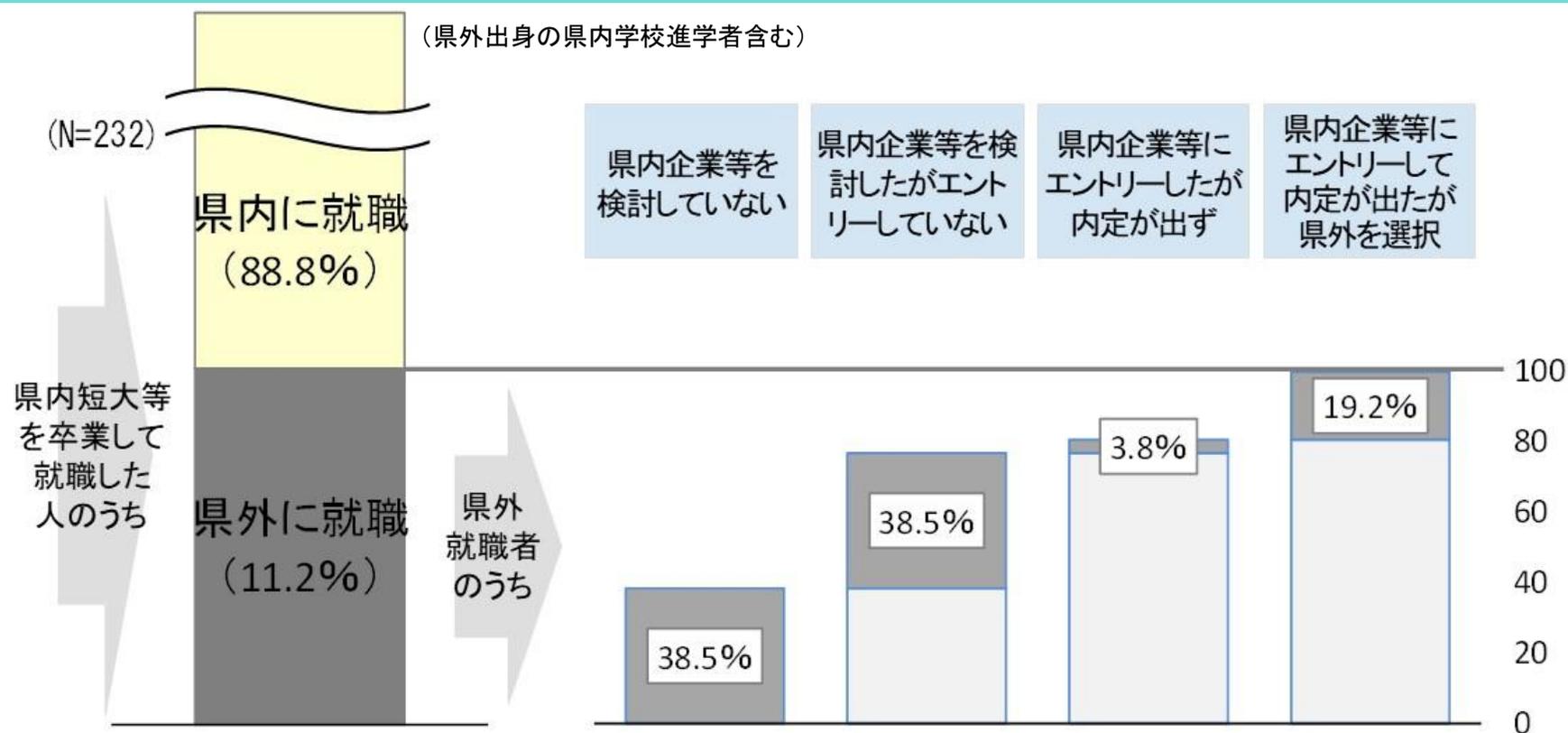
## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ② 県内短大・専門学校等卒 i) 県外就職選択の状況

- 県内に就職した人が88.8%、県外に就職した人が11.2%であった。この県外に就職した人のうち38.5%が県内の企業を就職先の候補として検討していない。続いて、県内企業も候補に入れて検討したものの、応募していない(エントリーしていない)人が38.5%、県内企業にエントリーしたが、内定が出なかったという人が3.8%、内定が出たものの最終的に県外の企業に就職した人が19.2%となっている。
- 県内の短大等を卒業した人は、四年制大学に比べて県内就職率が高く、結果的に県外に就職した人の6割以上が県内も選択肢に入れている。

県内短大・専門学校等卒就職者の県外就職選択の状況

全体版48頁



(注) 短大等には短期大学の他に、高等専門学校、専門学校を含む

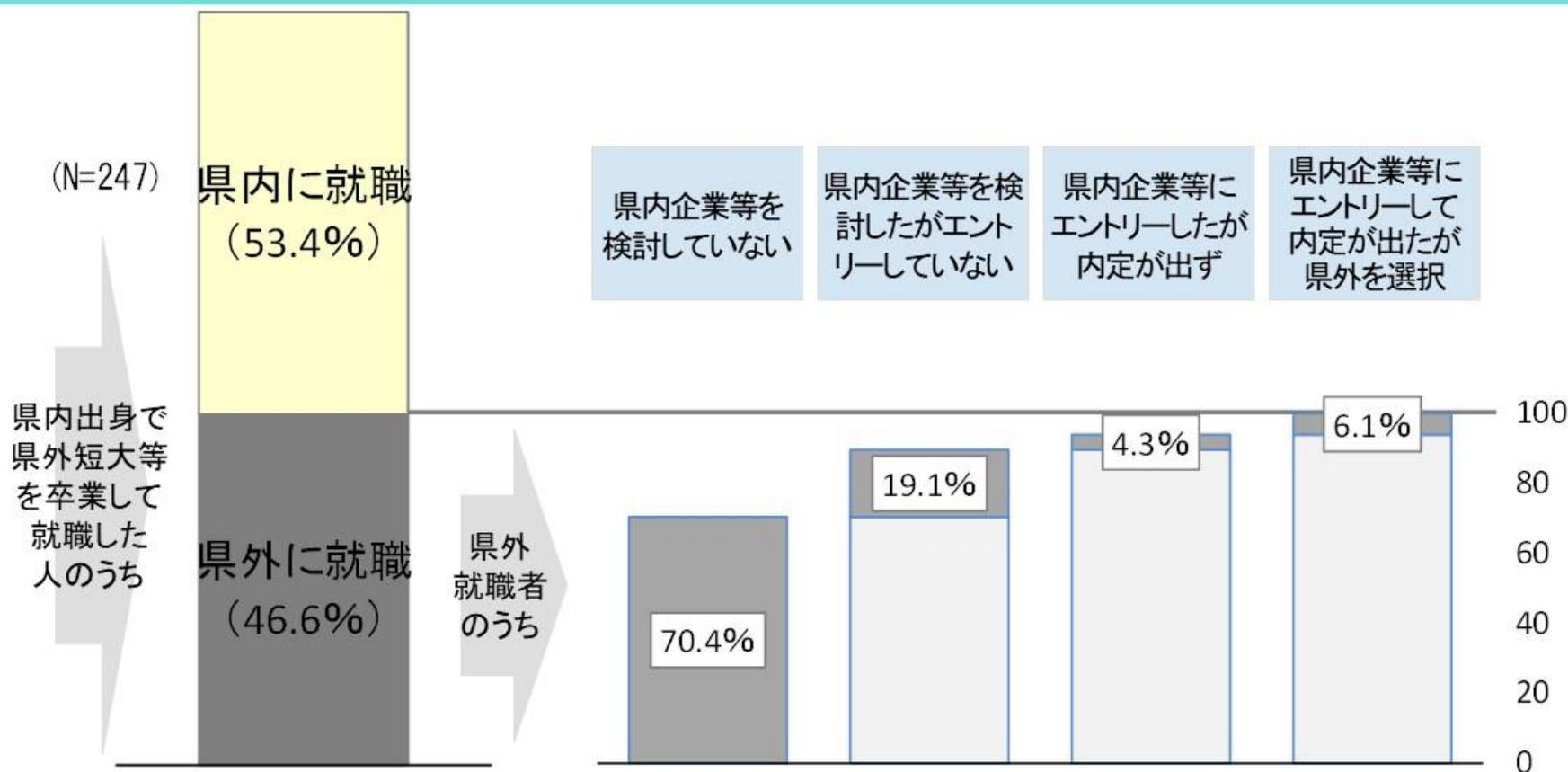
## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ② 県外短大・専門学校等卒 ii) 福島県出身・短大・専門学校等卒就職者の県外就職選択の状況

- 県内に就職した人が53.4%、県外に就職した人が46.6%であった。この県外に就職した人のうち70.4%が県内の企業を就職先の候補として検討していない。続いて、県内企業も候補に入れて検討したものの、応募していない(エントリーしていない)人が19.1%、県内企業にエントリーしたが、内定が出なかったという人が4.3%、内定が出たものの最終的に県外の企業に就職した人が6.1%となっている。
- 県外に就職した人のおよそ3割は県内企業を選択肢として検討している。その中のおよそ3分の2は、検討したもののエントリーという具体的な行動に移していない。

福島県出身・県外短大・専門学校等卒就職者の県外就職選択の状況

全体版49頁



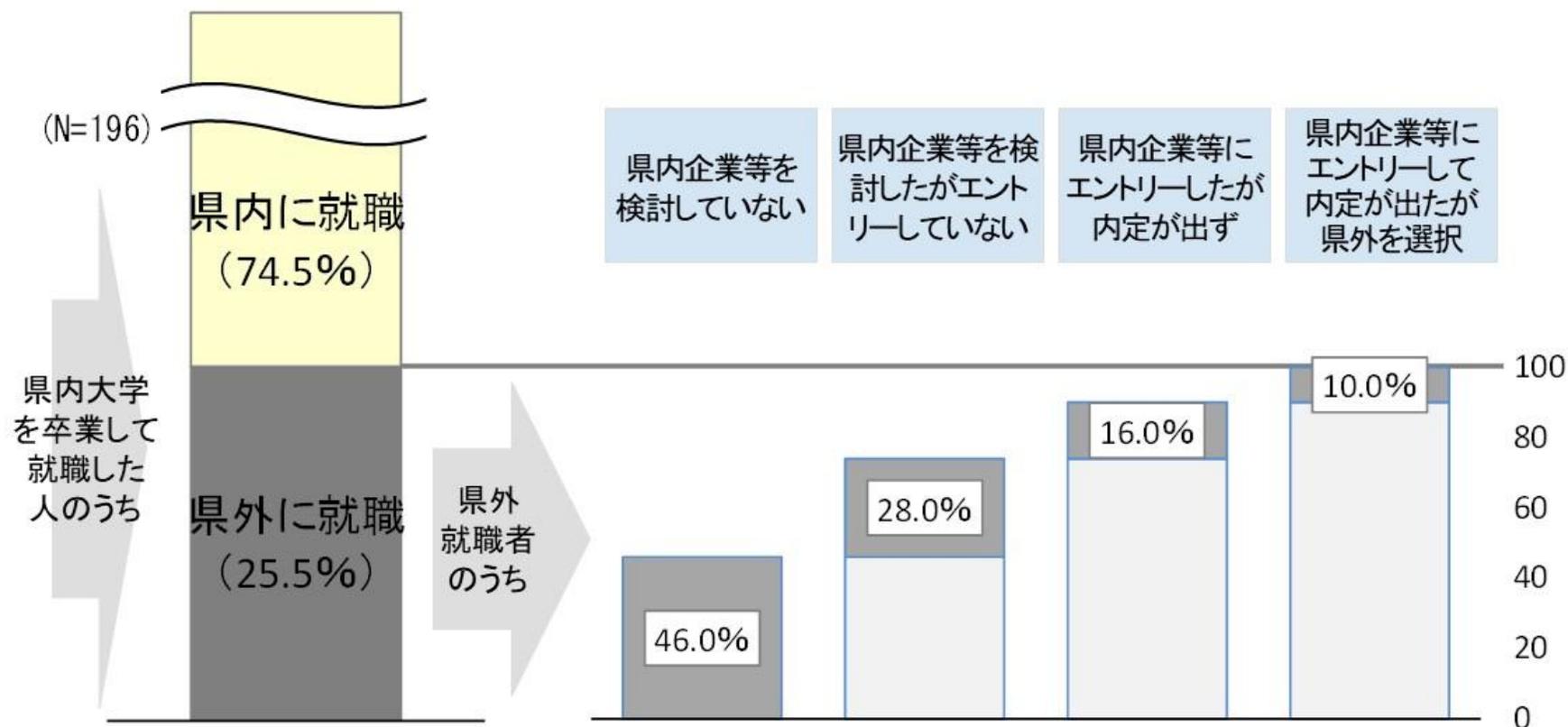
## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ③ 県内大卒就職者 i) 県外就職選択の状況(【県内大卒(県外出身の県内大進学者含む)】)

- 県内に就職した人が74.5%、県外に就職した人が25.5%であった。この県外に就職した人のうち46.0%が県内の企業を就職先の候補として検討していない。続いて、県内企業も候補に入れて検討したものの、応募していない(エントリーしていない)人が28.0%、県内企業にエントリーしたが、内定が出なかったという人が16.0%、内定が出たものの最終的に県外の企業に就職した人が10.0%となっている。
- 県内の大学を卒業後、結果として県外に就職した人の半数以上が県内企業を検討の対象には含めている。ただ検討に入れたうちの半数はエントリーという具体的な行動に移していない。

県内大卒就職者の県外就職選択の状況

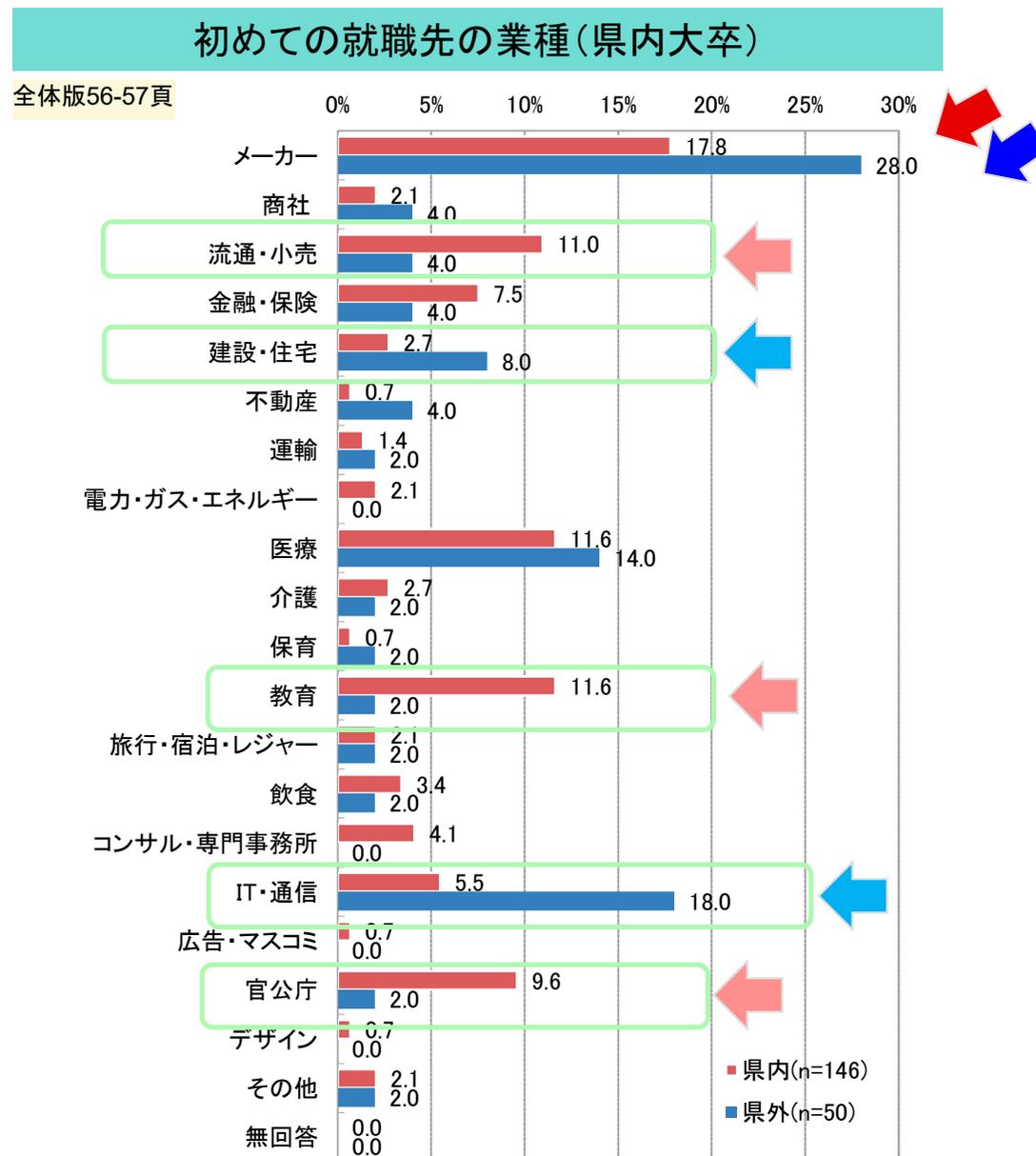
全体版46頁



## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ③ 県内大卒就職者 ii) 初めての就職先の業種

- 県内・県外とも、最も多い業種は「メーカー」であるが、県外の方がその比率が高い。
- 「流通・小売」「教育」「官公庁」については、県内就職者のほうが県外就職者に比べて比率が高い。
- 「建設・住宅」「IT・通信」については、県外就職者のほうが県内就職者に比べて比率が高い。

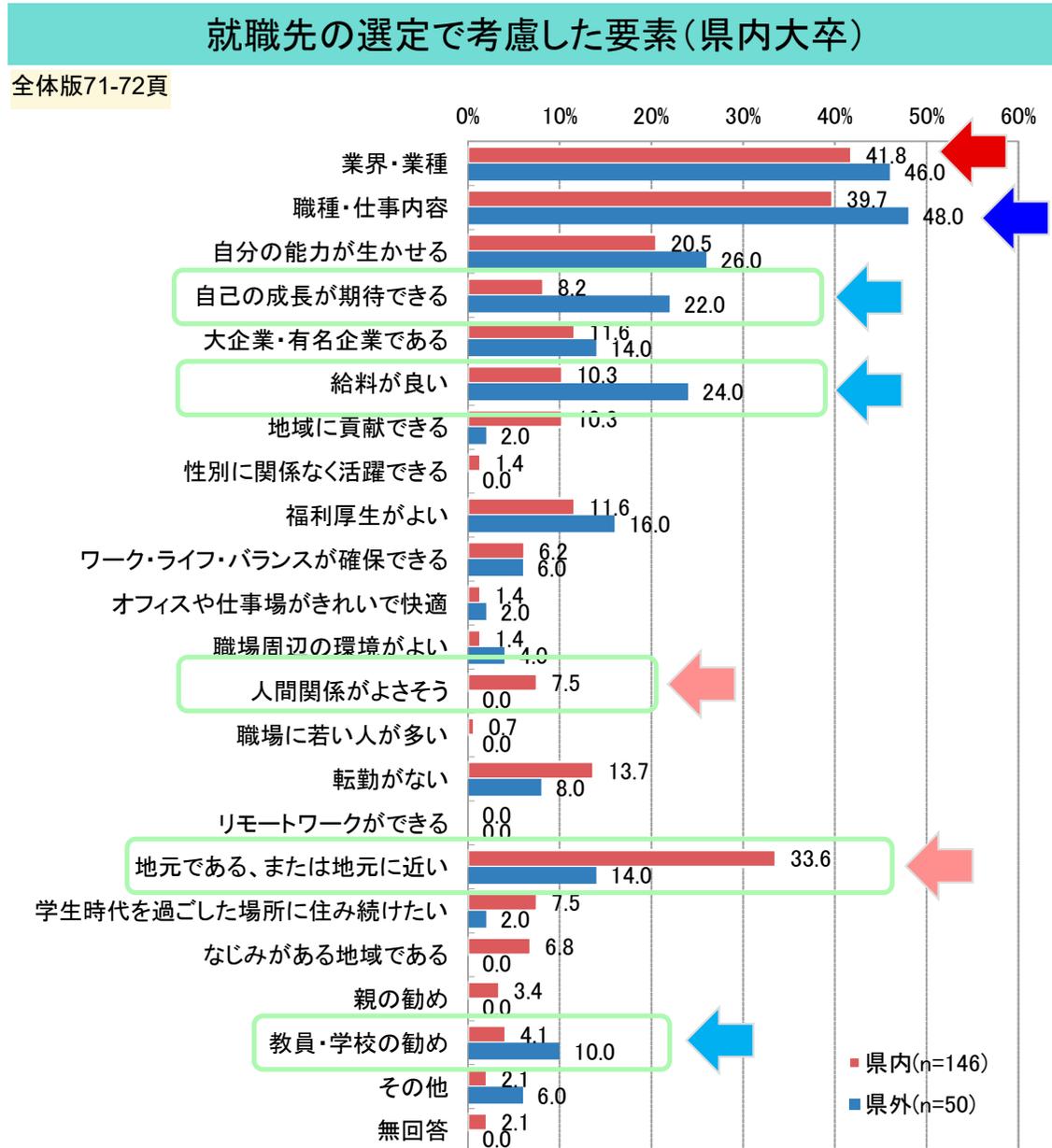


全体版56-57頁  
 クロス表【初めて就職した企業の業種】  
 県内大卒就職者の下の  
 ・県内就職者  
 ・県外就職者  
 の値をグラフ化

## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ③ 県内大卒就職者 iii) 就職先の選定で考慮した要素

- 県内就職者は「業界・業種」「職種・仕事内容」、  
県外就職者は「職種・仕事内容」「業界・業種」  
の順で比率が高い。
- 県外就職者の方が高いのは、「自己の成長が  
期待できる」「給料が良い」「教員・学校の勧め」
- 県内就職者の方が高いのは、「人間関係が良さ  
そう」「地元である、または地元に近い」

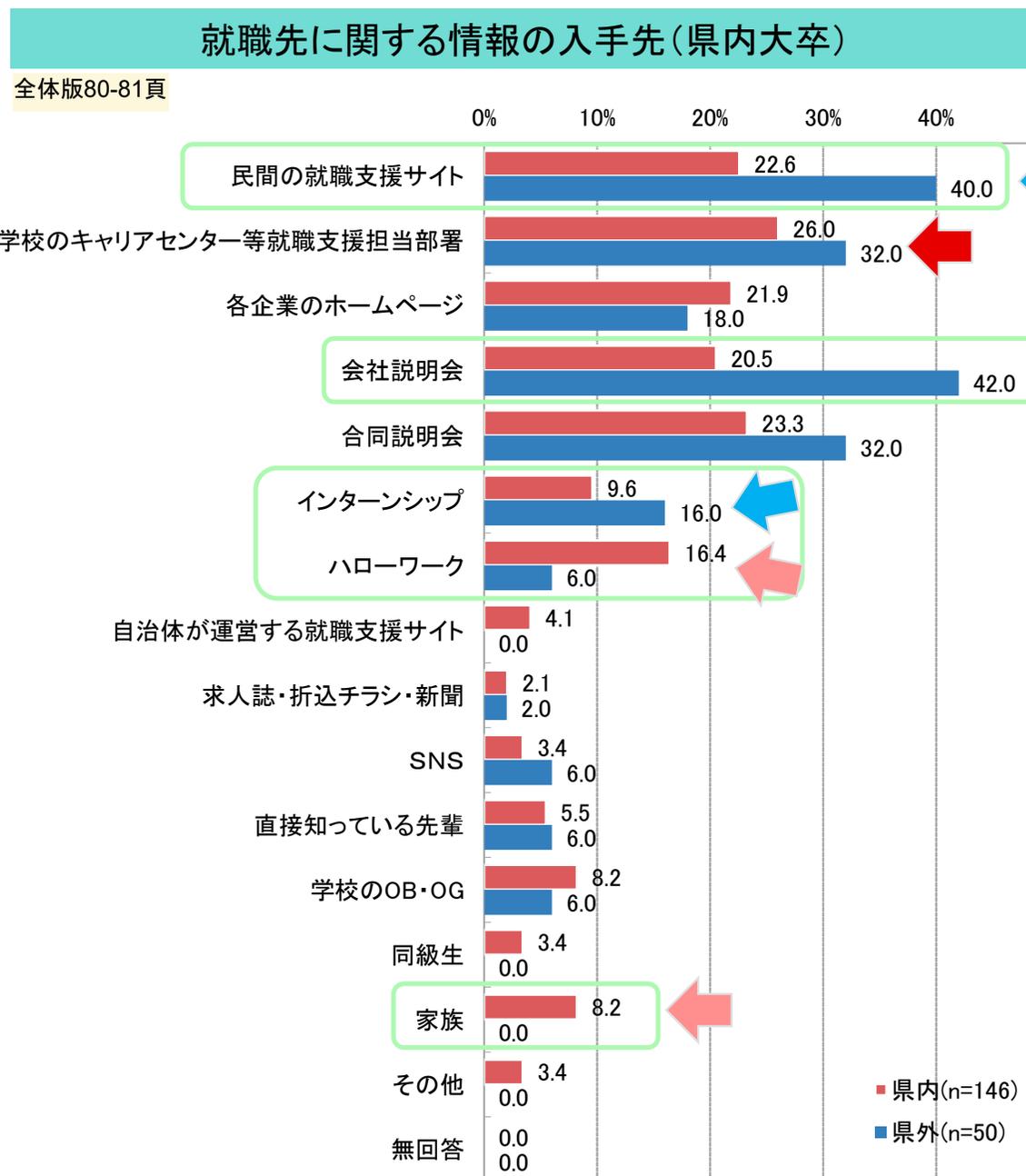


全体版71-72頁  
クロス表【「最大の決め手」と「その他考慮した要素」の合計】  
県内大卒就職者の下の  
・県内就職者  
・県外就職者  
の値をグラフ化

## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ③ 県内大卒就職者 iv) 就職先に関する情報の入手先

- 県内就職者は「学校のキャリアセンター等就職支援担当者」の比率が最も高いが、県外就職者に比べて、多くの項目において利用率が低い。ただ、「ハローワーク」「家族」などの比率は県外就職者に比べて高い。
- 県外就職者は、「会社説明会」「民間の就職支援サイト」の比率が高い。また、「インターンシップ」の比率も県内就職者に比べて高い。



全体版80-81頁  
 クロス表【就職先の情報を入手した先(複数回答)】  
 県内大卒就職者の下の  
 ・県内就職者  
 ・県外就職者  
 の値をグラフ化

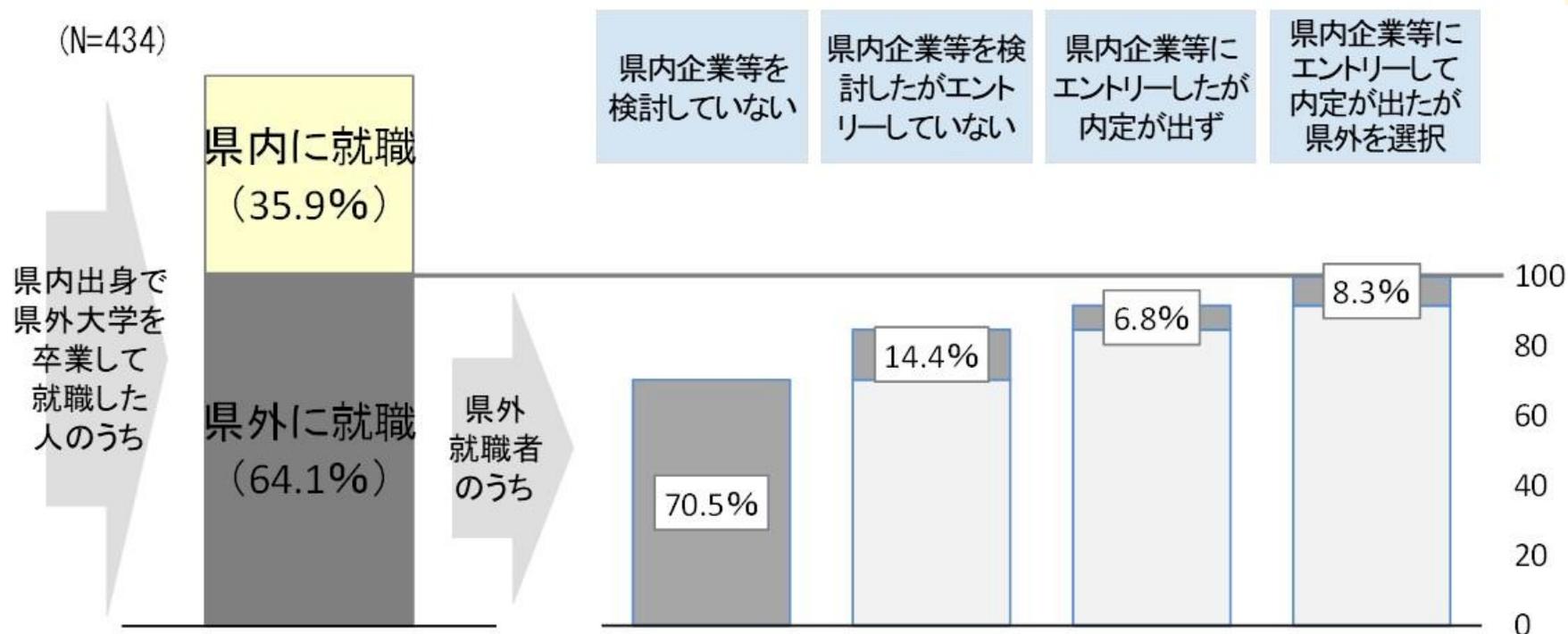
## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ④福島県出身・県外大卒就職者 i) 県外就職選択の状況

- 県内に就職した人が35.9%、県外に就職した人が64.1%であった。この県外に就職した人のうち70.5%が県内の企業を就職先の候補として検討していない。続いて、県内企業も候補に入れて検討したものの、応募していない(エントリーしていない)人が14.4%、県内企業にエントリーしたが、内定が出なかったという人が6.8%、内定が出たものの最終的に県外の企業に就職した人が8.3%となっている。
- 県出身者で、大学は県外を選んだ人は、県外に就職している比率が高いが、県外に就職した人でもおよそ3割は県内企業を選択肢として検討している。ただ、そのさらにおよそ半数は、検討したもののエントリーという具体的な行動に移していない。

福島県出身・県外大卒就職者の県外就職選択の状況

全体版47頁



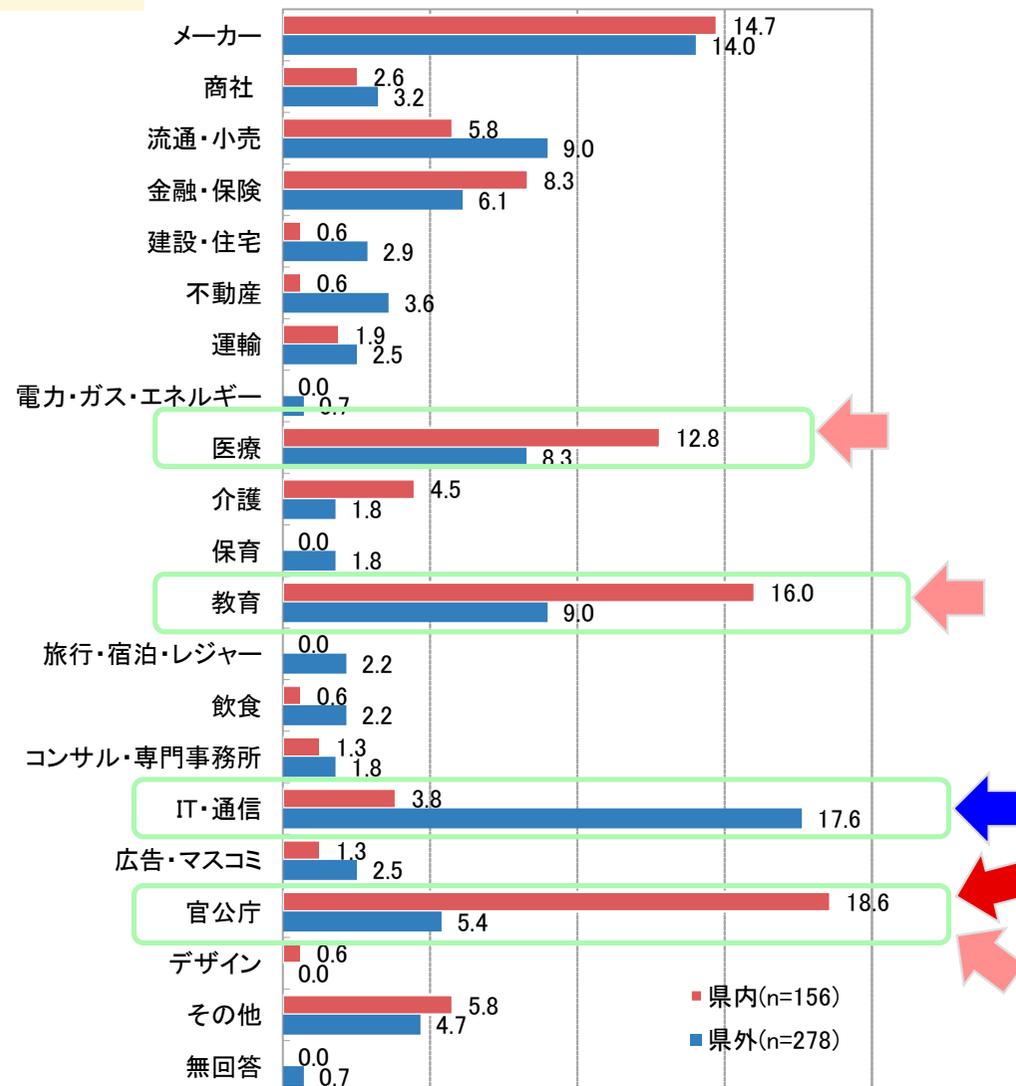
## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ④福島県出身・県外大卒就職者 ii) 初めての就職先の業種

- 県内就職者は「官公庁」、県外就職者は「IT・通信」の比率が最も高い。
- 「医療」「教育」「官公庁」については、県内就職者のほうが県外就職者に比べて比率が高い。特に「官公庁」は差が顕著である。
- 「IT・通信」については、県外就職者と県内就職者の比率の差が特に大きい。

初めての就職先の業種(県外大卒)

全体版56-57頁 0% 5% 10% 15% 20%



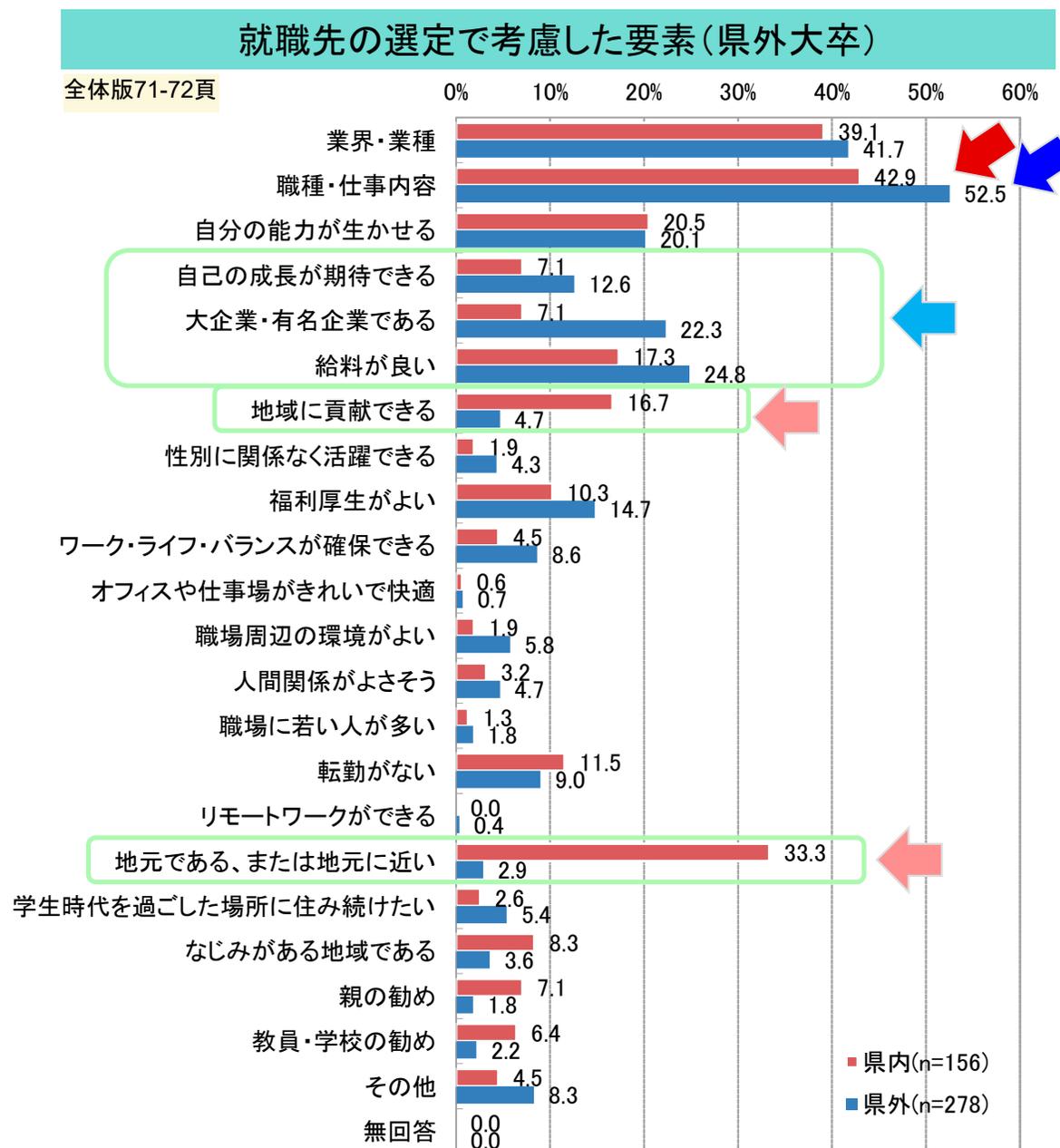
全体版56-57頁  
 クロス表【初めて就職した企業の業種】  
 県外大卒就職者の下の  
 ・県内就職者  
 ・県外就職者  
 の値をグラフ化

## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ④福島県出身・県外大卒就職者 iii) 就職先の選定で考慮した要素

- 県内・県外就職者とも「職種・仕事内容」「業界・業種」の順で比率が高い。
- 県外就職者の方が高いのは、「自己の成長が期待できる」「大企業・有名企業である」「給料が良い」
- 県内就職者の方が高いのは、「地域に貢献できる」「地元である、または地元に近い」

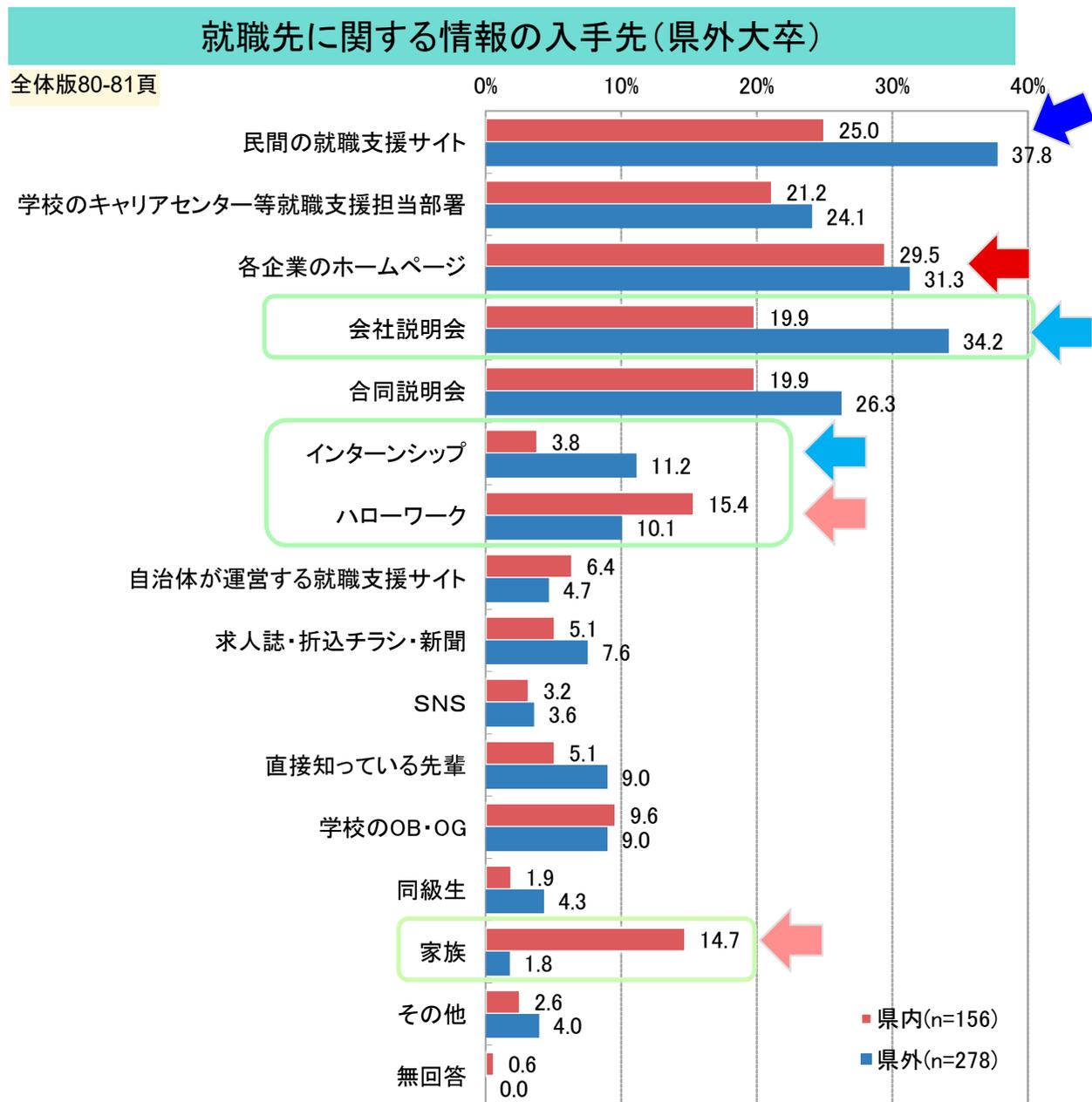
全体版71-72頁  
クロス表【「最大の決め手」と「その他考慮した要素」の合計】  
県外大卒就職者の下の  
・県内就職者  
・県外就職者  
の値をグラフ化



## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ④福島県出身・県外大卒就職者 iv) 就職先に関する情報の入手先

- 県内就職者は「各企業のホームページ」の比率が最も高いが、県外就職者に比べて全体的に利用率が低い。ただ、「ハローワーク」「家族」などの比率は県外就職者に比べて高い。
- 県外就職者は、「民間の就職支援サイト」「会社説明会」の比率が高い。また、「インターンシップ」の比率も県内就職者に比べて高い。



全体版80-81頁  
 クロス表【就職先の情報を入手した先(複数回答)】  
 県外大卒就職者の下の  
 ・県内就職者  
 ・県外就職者  
 の値をグラフ化

## 2. 居住地選択の節目となるライフイベントに係る設問

(3) 学校卒業後初めての就職 ④福島県出身・県外大卒就職者 v) 福島県内の企業に就職しなかった理由

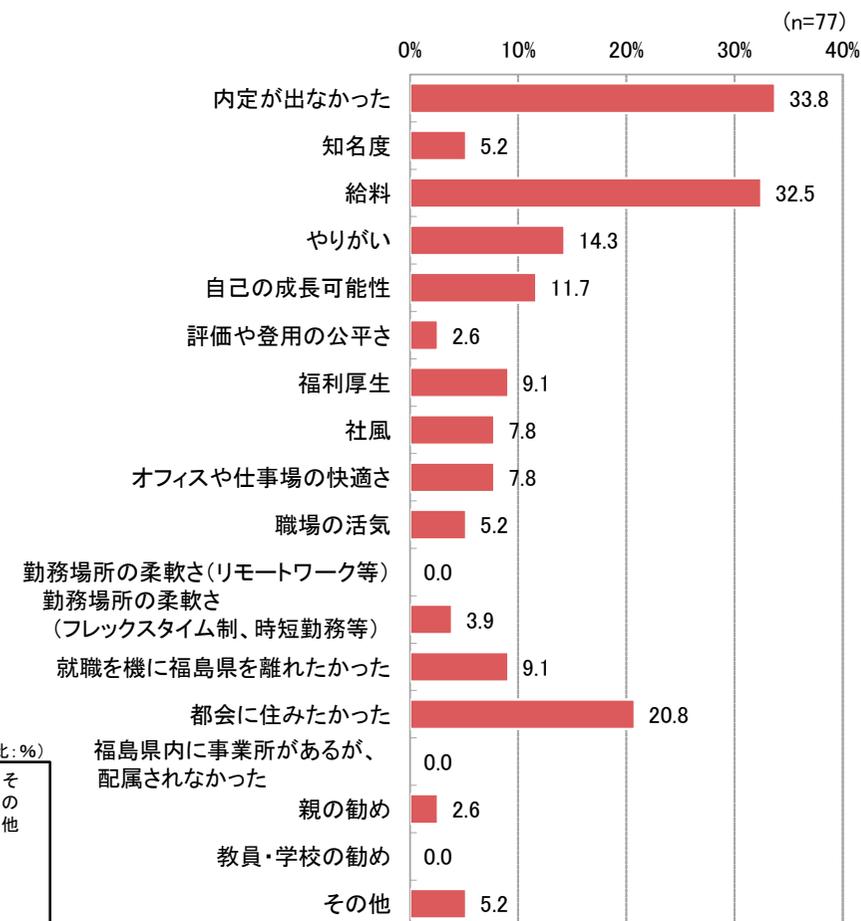
- 福島県内の企業に就職しなかった理由として、最も割合が高いのは「内定が出なかった」(33.8%)で、次いで「給料」(32.5%)、「都会に住みたかった」(20.8%)が続く。
- 性別では「男性」が「給料」「自己の成長可能性」を挙げている人が「女性」より比率が高い。一方、「女性」は「内定が出なかった」「福利厚生」「オフィスや仕事場の快適さ」を挙げている比率が「男性」より高い。
- 「就職を機に福島県を離れたかった」という人が県内の高校・大学卒業者、および中心5市以外の出身者で回答の比率が高い。中心5市以外の出身者は「都会に住みたかった」という回答の比率も全体に比べて高くなっている。

(横構成比: %)

	調査数	内定が出なかった	知名度	給料	やりがい	自己の成長可能性	評価や登用の公平さ	福利厚生	社風	オフィスの快適さや仕事場	職場の活気	就職を機に福島県を離れたかった	都会に住みたかった	その他
全体	77	33.8	5.2	32.5	14.3	11.7	2.6	9.1	7.8	7.8	5.2	9.1	20.8	5.2
性別 男性	35	28.6	2.9	40.0	14.3	20.0	5.7	5.7	11.4	5.7	11.4	11.4	20.0	2.9
性別 女性	42	38.1	7.1	26.2	14.3	4.8	0.0	11.9	4.8	9.5	4.8	7.1	21.4	7.1
県内高卒・県外就職者	13	7.7	0.0	38.5	15.4	30.8	0.0	7.7	7.7	7.7	7.7	23.1	23.1	0.0
県内大卒・県外就職者	11	54.5	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	18.2	18.2	9.1
県外大卒・県外就職者	42	35.7	9.5	31.0	19.0	14.3	2.4	7.1	4.8	14.3	2.4	4.8	21.4	4.8
地域 中心5市	46	32.6	6.5	32.6	15.2	13.0	2.2	13.0	4.3	8.7	4.3	6.5	17.4	8.7
地域 その他	24	37.5	4.2	29.2	8.3	12.5	4.2	0.0	12.5	8.3	0.0	16.7	29.2	0.0

### 福島県内の企業に就職しなかった理由

全体版77頁



(注) クロス集計表からは、全体の回答比率が5%未満の選択肢を省略している

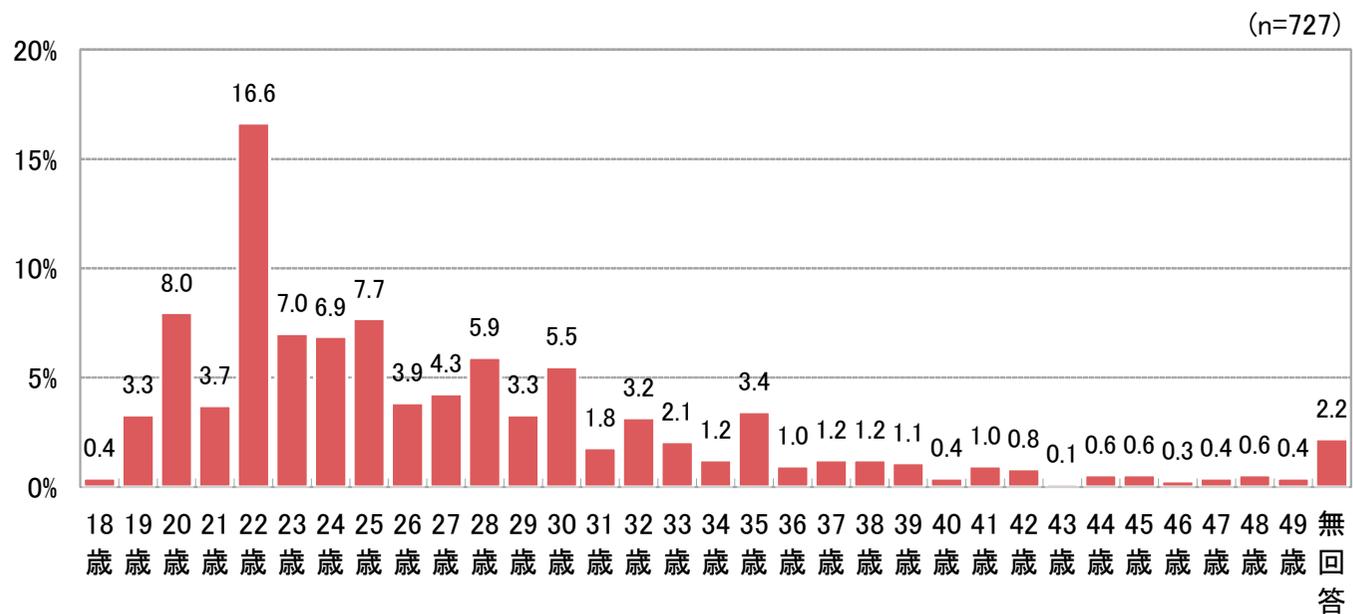
### 3. UIターン等に関する設問

(1) UIターンした人(年齢と理由) ①県外から福島県にUIターンした時の年齢

- UIターンした時の年齢として、最も割合が高いのは「22歳」(16.6%)で、次いで「20歳」(8.0%)、「25歳」(7.7%)が続く。
- 移動形態別にみると、「Uターン」のピークは「22歳」であり、次いで「20歳」となっている。

県外から福島県にUIターンした時の年齢

全体版88頁



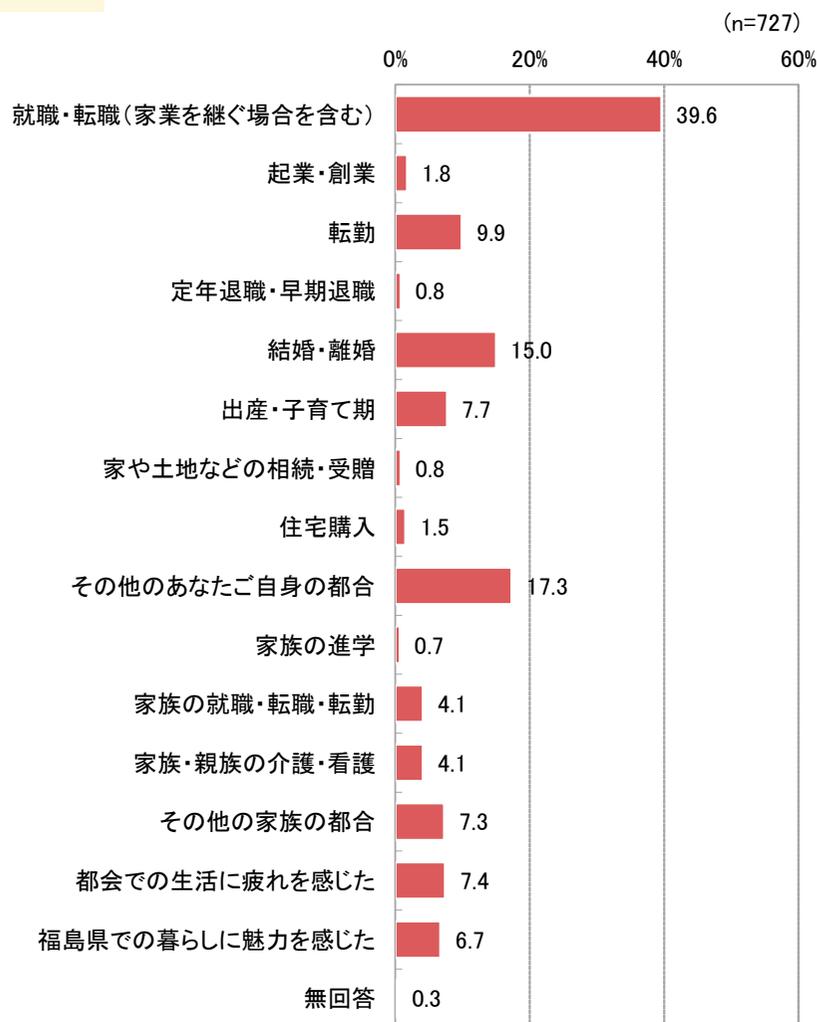
### 3. UIJターン等に関する設問

(1)UIJターンした人(年齢と理由) ②県外から福島県にUIJターンした理由

- UIJターンした理由として、最も割合が高いのは「就職・転職(家業を継ぐ場合を含む)」(39.6%)であった。
- 次いで「その他のあなたご自身の都合」(17.3%)、「結婚・離婚」(15.0%)が続く。

#### 県外から福島県にUIJターンした理由(複数回答)

全体版90頁



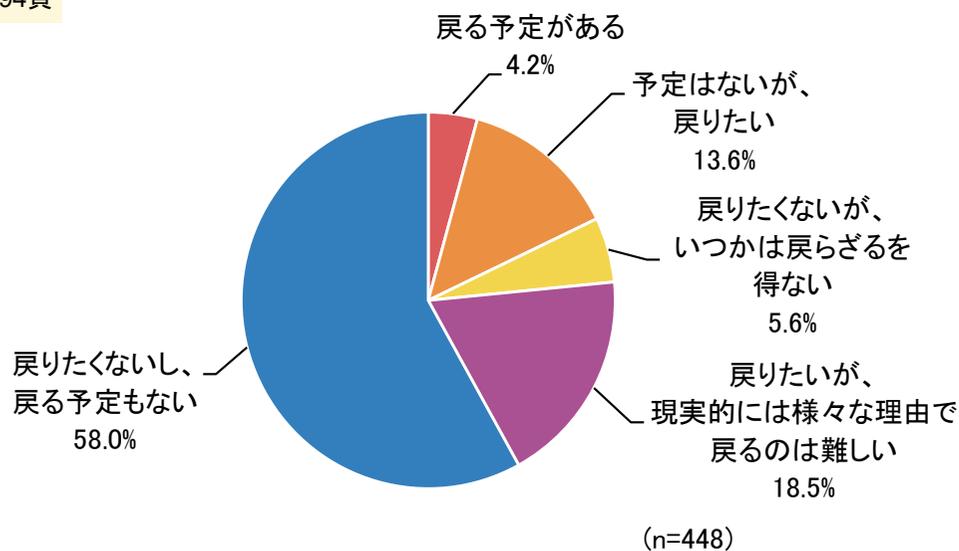
### 3. UIターン等に関する設問

(2) 県出身東京圏在住者がUターンする可能性 ①福島県にUターンする予定

- 現在東京圏在住の福島県出身者のUターン意向について、最も回答の割合が高いのは「戻りたくないし、戻る予定もない」(58.0%)であった。
- 次いで「戻りたいが、現実的には様々な理由で戻るの難しい」(18.5%)、「予定はないが、戻りたい」(13.6%)が続く。
- 「40歳代」になると、「戻りたくないし、戻る予定もない」という比率は7割を超えている。
- 一方で、「30歳代」の「女性」においては、「予定はないが、戻りたい」という回答が25.0%と他の属性に比べても高くなっており、「戻る予定がある」と合わせると3割に達する。

#### 福島県にUターンする予定

全体版93-94頁



(横構成比: %)

属性	調査数	戻る予定がある	戻りたいが、現実的には様々な理由で戻るの難しい	予定はないが、戻りたい	戻りたくないが、いつかは戻らざるを得ない	戻る予定がない	戻りたくないし、戻る予定もない
全体	448	4.2	18.5	13.6	5.6	18.5	58.0
年代別	18歳~20歳代	75	6.7	14.7	6.7	14.7	57.3
	男性	14	7.1	28.6	0.0	21.4	42.9
	女性	61	6.6	11.5	8.2	13.1	60.7
	30歳代	156	5.8	18.6	6.4	17.9	51.3
	男性	68	5.9	10.3	11.8	17.6	54.4
	女性	88	5.7	25.0	2.3	18.2	48.9
40歳代	217	2.3	9.7	4.6	20.3	63.1	
男性	102	3.9	12.7	5.9	25.5	52.0	
女性	115	0.9	7.0	3.5	15.7	73.0	

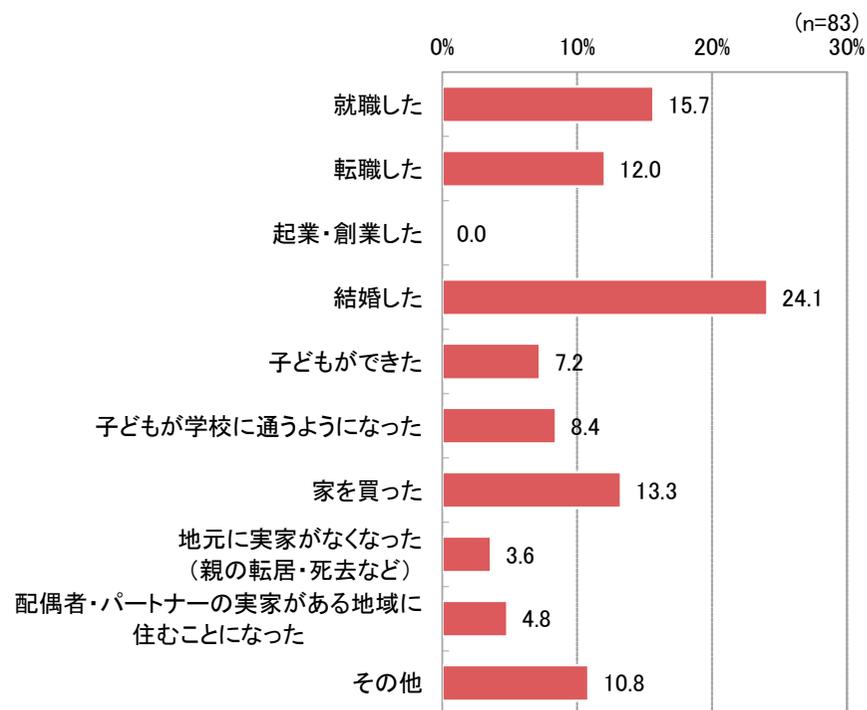
### 3. Uターン等に関する設問

(2) 県出身東京圏在住者がUターンする可能性 ②Uターンすることを難しいと考えるようになったタイミング

- 県出身東京圏在住者がUターンすることを難しいと考えるようになったタイミング最も割合が高いのは「結婚した」(24.1%)であった。
- 次いで「就職した」(15.7%)、「家を買った」(13.3%)が続く。

#### Uターンすることを難しいと考えるようになったタイミング

全体版98頁



## 4. 人口減少対策に関する設問

### (1) 居住地を選択する際に重視すること

- 居住地を選択する際に重視することとして、重視する(「非常に重視する」と「やや重視する」の合計)の割合でみると、最も割合が高いのは「手頃な予算で快適な住宅に住める」(76.3%)で、次いで「買い物等の環境が充実している」(76.0%)、「精神的なゆとりが持てる」(71.9%)「交通利便性が高い」(71.8%)が続く。
- 年代別にみると、「18～20歳代」においては「楽しめる遊び場所や観光地がたくさんある」「きれいな場所・おしゃれな場所が多い」「多様な価値観が受け入れられる」「性別に基づく固定観念がない」といった項目において、他の年代に比べて回答の比率が高くなっている。
- 「Iターン」は「文化・芸術に触れる機会が多い」を挙げている比率が全体に比べて高くなっている。
- 「現在東京圏」に在住する福島県出身者は、全体的に回答比率が高く、要求水準の高さがうかがえる。特に県内在住者との差が大きな項目としては、「文化・芸術に触れる機会が多い」「余暇が充実している」「楽しめる遊び場所や観光地がたくさんある」「交通利便性が高い」「教育水準が高い」「多様な価値観が受け入れられる」が挙げられる。

### 居住地を選択する際に重視すること

全体版138頁

(横構成比:%)

	調査数	文化・芸術に触れる機会が多い	余暇が充実している	くさん観る地遊びた場所	楽しめる遊び場	が充実した環境	手頃な住宅に住めやすい	暮らしも安心して暮らせる	医療体制が充実している	交通利便性が高い	自然が豊かな	おきれいな場所・施設が多い	精神的なゆとりが持てる	子どもをのびのび育てられる	教育水準が高い	多様な価値観が受け入れられる	性別に基づく固定観念がない	いじめが少ない	地域に特色がある
全体	2,069	25.4	58.0	51.3	76.0	76.3	66.7	68.8	71.8	49.8	45.5	71.9	55.1	40.5	44.9	39.1	61.2	52.6	
年代別	18歳～20歳代	309	28.8	62.1	<b>58.3</b>	76.7	78.3	65.0	65.4	69.9	50.8	<b>54.0</b>	72.5	55.7	44.0	<b>51.5</b>	<b>47.9</b>	60.8	<b>58.6</b>
	30歳代	789	25.7	58.7	51.1	75.5	76.7	66.2	66.5	69.5	50.7	46.5	72.8	58.8	42.8	46.8	38.0	62.0	54.5
	40歳代	971	24.1	56.0	49.3	76.1	75.4	67.7	71.7	74.4	48.7	42.0	71.0	52.0	37.5	41.3	37.1	60.7	49.2
移動形態別	ずっと福島県	845	<b>19.1</b>	55.7	49.6	73.5	74.9	69.8	68.0	70.4	51.5	45.9	70.7	56.0	38.7	43.3	36.8	59.8	53.1
	Iターン	530	25.8	55.5	47.0	74.7	76.8	65.7	68.5	68.3	50.9	41.1	72.1	56.2	39.4	42.5	38.5	59.8	52.6
	Iターン	52	<b>32.7</b>	59.6	48.1	76.9	<b>67.3</b>	<b>44.2</b>	<b>55.8</b>	<b>61.5</b>	50.0	<b>32.7</b>	75.0	55.8	36.5	<b>32.7</b>	34.6	<b>53.8</b>	<b>57.7</b>
	Jターン	53	24.5	54.7	47.2	75.5	<b>69.8</b>	<b>45.3</b>	64.2	<b>64.2</b>	<b>43.4</b>	<b>34.0</b>	69.8	52.8	41.5	41.5	<b>32.1</b>	<b>54.7</b>	<b>35.8</b>
	現在東京圏	448	<b>37.1</b>	<b>68.3</b>	<b>60.3</b>	<b>81.7</b>	79.9	<b>71.9</b>	<b>75.4</b>	<b>82.6</b>	46.4	<b>53.1</b>	75.4	56.2	<b>48.9</b>	<b>56.0</b>	<b>45.8</b>	<b>69.0</b>	54.7

## 4. 人口減少対策に関する設問

### (2) ジェンダーに関すること

- これまでの暮らしの中で「性別役割分担意識」を感じた経験があるかについては、感じたことがあった(「頻繁にあった(ある)」と「たまにあった(ある)」の合計)の割合で見ると、最も高いのは「現在のお勤め先(n=1,819)」(31.9%)であった。
- 次いで「中学校(n=2,069)」(31.6%)、「小学校(n=2,069)」(31.2%)が続く。
- 年代別にみると、「現在のお勤め先」において、若い年代ほど「感じた(感じる)」という回答の比率が高くなっており、「18～20歳代」と「40歳代」では5ポイント以上の差が生じている。
- 移動形態別にみると、「Uターン」の「女性」において、「現在お住まいの地域」や「現在のお勤め先」において「感じた(感じる)」という回答の比率が目立って高くなっている。(つまり福島県内で感じている可能性が高い)
- 「Uターン」においては、小中学校においても、「感じた(感じる)」という回答の比率の差が大きくなっており、同じ福島県出身者で県外から福島県にUターンした人であっても、男女で認識の差が大きいことがうかがえる。一方、「現在東京圏」在住の人は、「現在お住まいの地域」において「感じた(感じる)」という回答の比率が目立って低くなっている。

### これまでの暮らしの中で「性別役割分担意識」を感じた経験

全体版142頁

(横構成比: %)

		小学校	中学校	高校・高専	短大・大学院・専門学校・など	現在お住まいの地域	現在のお勤め先
全体		31.2	31.6	25.3	20.5	29.7	31.9
年代別	18歳～20歳代	27.5	29.1	23.0	17.3	27.8	35.5
	30歳代	31.8	31.3	26.5	21.3	29.8	33.1
	40歳代	31.8	32.5	25.0	21.0	30.3	30.0
移動形態別	ずっと福島県	32.0	31.6	25.2	23.2	32.0	32.1
	男性	31.7	30.0	27.3	23.3	29.0	29.3
	女性	32.1	32.5	24.0	23.1	33.6	33.9
	Uターン	29.4	30.6	25.7	21.3	37.7	34.5
	男性	25.7	25.7	24.1	19.9	29.6	30.8
	女性	32.9	35.0	27.1	22.6	45.1	38.5
	現在東京圏	32.4	33.7	26.3	18.0	17.4	28.8
	男性	29.3	29.9	26.6	23.4	16.3	24.3
女性	34.5	36.4	26.1	14.5	18.2	32.7	

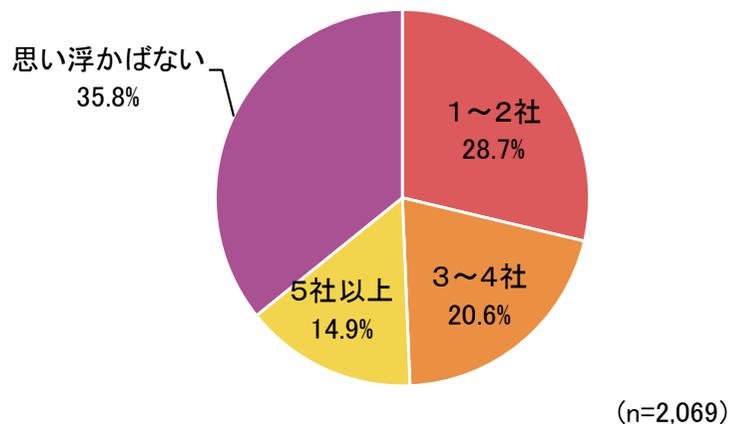
## 4. 人口減少対策に関する設問

(3) 県内企業との接点 ①「福島県の企業」と聞いた時に思い浮かぶ企業の数

- 「福島県の企業」と聞いた時に思い浮かぶ企業数をたずねたところ、最も割合が高いのは「思い浮かばない」(35.8%)であった。
- 次いで「1～2社」(28.7%)、「3～4社」(20.6%)が続く。
- 出身地域別にみると、都市圏に含まれない「その他」の地域の出身者において、「思い浮かばない」という比率が高い。

### 「福島県の企業」と聞いた時に思い浮かぶ企業の数

全体版144頁



(横構成比: %)

出身地域別	調査数	1	3	5	思い 浮か ば ない
		2 社	4 社	社 以 上	
全体	2,069	28.7	20.6	14.9	35.8
福島都市圏	424	22.2	24.1	18.9	34.9
会津若松都市圏	232	30.2	19.0	12.9	37.9
郡山都市圏	531	33.0	18.3	15.1	33.7
いわき都市圏	349	29.2	24.6	13.2	33.0
白河都市圏	111	36.9	18.0	9.0	36.0
その他	176	21.6	19.3	16.5	42.6

## 4. 人口減少対策に関する設問

### (3) 県内企業との接点

- 学校や地域での、福島県の企業を知る機会の有無について、就職先の県内・県外別に整理した。
- 高卒就職者では、小学校で機会があったという人は、県外就職者の方が比率が高い。
- 高校・高専で機会があったという人においては、県内大の卒業者は、県外就職者の方が機会があったという人の比率が高い。
- 小学校や高校でのこのような機会は、県内企業への就職促進という観点では奏功していない可能性がある。
- 県内の短大・専門学校の卒業者については、県内就職者の方が機会があった人の比率が顕著に高くなっており、短大・専門学校の場においては奏功していると考えられる。

### 学校や地域で福島県の企業を知る機会があったか

全体版147頁

(「機会があり、内容もよく覚えている」という回答の比率)

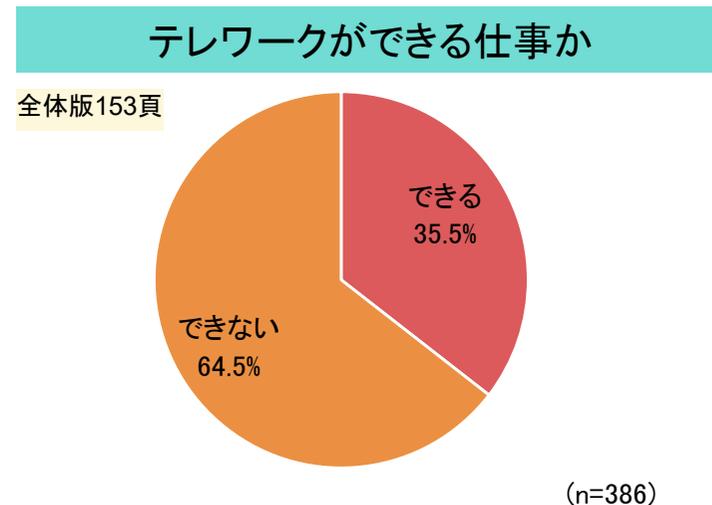
(横構成比: %)

	小学校	中学校	高校・高専	大学・専門大学 大学院など短大	地域のイベントなど
全体	10.5	12.5	12.9	20.2	10.0
県内高卒就職者	8.9	11.8	14.5	17.2	7.2
県内高卒・県内就職者	8.1	11.6	14.4	16.7	6.4
県内高卒・県外就職者	<b>16.7</b>	13.3	15.0	<b>14.3</b>	15.0
県内大卒就職者	<b>15.7</b>	13.7	13.7	23.5	<b>17.6</b>
県内大卒・県内就職者	<b>16.7</b>	12.7	11.9	24.6	<b>19.0</b>
県内大卒・県外就職者	13.0	17.4	<b>21.7</b>	21.7	13.0
県外大卒就職者	12.6	15.0	10.6	<b>14.5</b>	12.6
県外大卒・県内就職者	9.6	14.7	9.6	<b>12.5</b>	12.5
県外大卒・県外就職者	<b>19.1</b>	16.2	13.2	17.6	13.2
県内短大等卒就職者	11.2	12.1	15.0	<b>25.5</b>	12.1
県内短大卒・県内就職者	11.2	12.8	15.4	<b>26.3</b>	11.7
県内短大卒・県外就職者	11.8	<b>5.9</b>	11.8	<b>11.8</b>	11.8
県外短大等卒就職者	8.5	9.6	10.7	<b>14.7</b>	11.9
県外短大卒・県内就職者	10.6	11.4	11.4	16.0	12.2
県外短大卒・県外就職者	<b>3.8</b>	<b>5.7</b>	9.4	<b>10.2</b>	11.3

## 4. 人口減少対策に関する設問

### (4)テレワークについて

- 現在東京圏に在住し、就業している福島県出身者に、テレワークできる仕事かたずねたところ、「できない」(64.5%)、「できる」(35.5%)となっている。



- テレワークができれば、福島県内に住んでもよいと思うかという問いに対しては、「思う」(54.7%)、「思わない」(45.3%)となっている。
- 「思う」比率が多い属性は、男女別には男性よりも女性、年代別には30歳代の方が多いとなっている。

